中高環第 14 号 平成24年3月27日

本社の本部、事業本部及び部の長 並びに支社等の長 殿

環境·技術部長

「請負工事成績評定要領」の一部改正について

請負工事等成績評定要領(平成 20 年 6 月 23 日付け中高技第 49 号企画本部長通達) の一部を、別添のとおり改正したので通知する。

なお、本通達は、平成24年4月1日以降に評定実施する工事から適用することとする。

以上

請負工事成績評定実施要領

(目 的)

第1条 本実施要領は、請負工事成績評定要領(以下「成績評定要領」という。)に 基づく評定の実施細則を定めることにより、厳正かつ的確な評定の実施を図り、も って請負工事の適正かつ効率的な施工を確保し、技術水準の向上に資するとともに、 受注業者の適正な選定を図ることを目的とする。

(成績評定の方法)

- 第2条 品質中間評定は、工事ごとに独立して次の各号に掲げる事項のとおり行うものとする。
 - 一 評定は、別紙-3-2(主任検査員用)「考査項目別運用表(品質管理中間検査用)」を基に、別記様式第1-2「評定点算出表(品質中間評定)」及び別記様式第2-2「項目別評定点算出表(品質中間評定)」により行い、結果を監督検査要領に規定する別記様式第2号「品質管理中間検査調書」に記録するものとする。
 - 二 評定を行う際には、別紙-4「記入方法及び留意事項」に留意するものとする。
- 2 しゅん功評定は、工事ごとに独立して次の各号に掲げる事項のとおり行うものと する。
 - 一 評定は、別紙-1(主任補助監督員用)、別紙-2(監督員用)、別紙-3(主任検査員用)「考査項目別運用表」を基に、別記様式第1「評定点算出表(しゅん功評定)」及び別記様式第2「項目別評定点算出表(しゅん功評定)」により行い、結果を別記様式第3「しゅん功評定表」に記録するものとする。
 - 二 評定を行う際には、別紙-4「記入方法及び留意事項」に留意するものとする。
 - 三 「工事特性」、「創意工夫」、「社会性等」の評定に関しては、受注者からの 資料を受け付けるものとし、その場合はこれも考慮するものとする。

以 上

評定点算出表(しゅん功評定)

 平成
 年月
 月 作成

 支社
 事務所

																							· 个上				事伤り
工事名															契約金	額(最	終)										
受注者名												工期		平成	年	月日	~	平	成年	月	日	完成	年月日	平成	年	月	日
			主任	E補助監	督員				E	监 督	員					Ė	E任検査	員				主	任検査員	(中間	検査※	2)	
考	查項目																										
		氏名						氏名							氏名							氏名					
項目	細別	а	b	С	d	е	а	a'	b	b '	С	d	е	а	a'	b	Ъ'	С	d	е	а	а'	b	Ъ'	С	d	е
1. 施工体制	I. 施工体制一般	+1	+0.5	0	-5	-10																					
	Ⅱ. 配置技術者	+3	+1.5	0	-5	-10																					
2. 施工状況	I.施 工 管 理	+4	+2	0	-5	-10								+5		+2.5		0	-7. 5	-15	+5		+2.5		0	-7.5	-15
	Ⅱ. 工 程 管 理	+4	+2	0	-5	-10	+2		+1		0	-7. 5	-15														
	Ⅲ. 安 全 対 策	+5	+2.5	0	-5	-10	+3		+1.5		0	-7. 5	-15														
	IV. 対 外 関 係	+2	+1	0	-2.5	-5																					
3. 出来形	I. 出 来 形	+4	+2	0	-2.5	-5								+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20	+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20
及び	Ⅱ.品 質	+5	+2.5	0	-2.5	-5								+15	+12	+7. 5	+4	0	-12.5	-25	+15	+12	+7.5	+4	0	-12.5	-25
出来ばえ	Ⅲ. 出 来 ば え													+5		+2.5		0	-5		+5		+2.5		0	-5	
4. 工事特性	Ⅰ. 施工条件等への対応 ※3						+	(20)	0																		
5. 創意工夫	I. 創意工夫 ※4	+	(7)	0																							
6. 社会性等	Ⅰ. 地域への貢献等※5						+10	+7.5	+5	+2.5	0																
加減点合語	† (1+2+3+4+5+6)		±	35.0	点				±	35. 0	点					<u>±</u>	35.0	点					±	35.0	点		
評定点 (65±加減点合計) ※1		1	100.0	点				2	100.0	点					3	100.0	点					4	100.0	点		
7. 評 第	定 点 計 ※2			100.0	点	_	中間検	査の実施	包有 (①	100.0	点×0	0.4+2	100.0	点×0	.2+3	100.0	点×0	.2+4	100.0	点×(). 2) =	100.0	点				
							中間検	査の実施	包無 (①	100.0	点×0	0.4+2	100.0	点×0	.2+3	100.0	点×0	.4) =				0.0	点				
	遵 守 等 ※6										_	0	点														
	提案不履行 ※7										_		点														
	点合計	_	100.0	点	(○7.評	定点計(100.0	点)—	8. 法令	遵守等(0	点) - 9	9. 技術技	是案不履	行((点 0	= 100).0 点								
11. VE評価	I. 入札時VE評価点						+3		+2	+1		0	点														
% 8	Ⅱ. 契約後VE評価点						+3		+2	+1		0	点														
	VE評定点												点														
	点総合計 ※10		100			. 評定点	合計(100.0				0 点)	= 100).0 点													
戸	f 見 ※11		(主任	E補助監	[督員]				(唐	监督	員)					(∃	E任検査	員)					(∃	E任検査	員)		

- %165点+1. $\sim3.$ の評定 (加減点合計) $+4.\sim6.$ の評定 (加点合計) = 評定点 各評定点 (① \sim ④) は小数第1位まで記入する。
- ※2 7.の評定点計は、上記評定点に各評定者の持分比率を乗じて加算し、小数第1位(小数第2位を四捨五入)まで記入する。
- ※3 工事特性は、当該工事特有の難度の高い条件(構造物の特殊性、特殊な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等)に対して適切に対応したことを評価する項目であり、加点評価のみとする。 原則として最大20点の加点評価とするが、長期または短期集中工事における安全確保による加点の場合は、20点を超えて評価できるものとする。(評定点の合計が100点を超える場合もあり得る。) 評価に際しては、主任補助監督員からの報告を受けて監督員が評価するものとする。
- ※4 創意工夫は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目であり、加点評価のみとする。
- ※5 社会性等の評価は、地域への貢献等の観点から加点評価のみとする。
- ※6 法令遵守等の評価は、注意及び資格登録停止の措置内容から減点評価のみとする。
- ※7 技術提案不履行は総合評価落札方式などの技術提案に不履行があった場合の減点評価とし、不履行が1項目であれば-5点、2項目以上であれば-10点とする。
- ※8 VE評価はVE適用工事のみ評価を行うこととし、提案への評価から加点評価のみとする。入札時VE評価点+契約後VE評価点=VE評定点
- ※9 各考査項目ごとの採点は、考査項目別運用表(しゅん功検査用)によるものとし、主任検査員の評価に先立ち、主任補助監督員、監督員が行う。
- ※10 評定点合計は、小数第1位を四捨五入することにより整数とする。
- ※11 所見(各考査項目の評価のうち、特筆すべき事項等)は必ず記載する。また、中間検査欄は、中間検査時の主任検査員所見を転記する。
- ※12 中間検査とは「品質管理中間検査」のことである。

 平 成
 年 月 日 作 成

 支社
 事務所

	tn 41. A tor												人山				Ŧ 107171					
工事名									契約金額						金額							
受注者名							工期		平成	年	月	日	~ 5	平成 4	年 月	日	検査	年月 日	平反	年	月	日
				3	È任検査員	Į				監督 員					主任補助監督員							
考	査 項 目																					
			氏名							氏名							氏名					
項目	細別	a	а'	b	b '	С	d	е	a	а'	b	b'	С	d	е	a	а'	b	b '	С	d	е
1. 施工体制	I. 施工体制一般																					
	Ⅱ. 配置技術者																					
2. 施工状況	I. 施 工 管 理 ※4	+5		+2.5		0	-7.5	-15														
	Ⅱ. 工 程 管 理																					
	Ⅲ. 安 全 対 策																					
	IV. 対 外 関 係																					
3. 出来形	I. 出 来 形	+10	+7.5	+5	+2.5	0	-10	-20														
及び	Ⅱ.品質	+15	+12	+7.5	+4	0	-12.5	-25														
出来ばえ	Ⅲ. 出 来 ば え	+5		+2.5		0	-5															
加減点	京合計 (1+2+3)			±	35.0	点	•															
評定点((65±加減点合計) ※1			1	100.0	点																
4. 評 定	点 合 計																					
5. 評定	点 総 合 計 ※2								1			4. 評定点										
所	見 ※5			(=	主任検査員	員)					(監督	員)					(主任	壬補助監督	译員)		

※1 6 5 点+1.~3.の評定(加減点合計) = 評定点 評定点は小数第1位まで記入する。

- ※2 4.の評定点総合計は、小数第1位を四捨五入することにより整数とする。
- ※3 各考査項目ごとの採点は、考査項目別運用表(品質管理中間検査用)によるものとする。
- ※4 「Ⅰ.施工管理」には、「Ⅰ.施工体制一般」、「Ⅱ.工程管理」及び「Ⅲ.安全対策」に関する評価を含むものとする。
- ※5 主任検査員は、所見(各考査項目の評価のうち、特筆すべき事項等)を必ず記載するものとする。また、監督員、主任補助監督員においても特筆すべき事項があれば記載するものとする。。

別記様式第2

項目別評定点算出表(しゅん功評定)

項目	細別	①主任補助監督員	②監督員	③主任検査員	④主任検査員(中間)	細目別評定点	得点割合
1. 施工体制	I. 施工体制一般	(1.0) × 0.4+2.6=				3.00	
		3.00 点				3.0 点	3.0%
	Ⅱ. 配置技術者	(3.0) ×0.4+2.8=				4. 00	
		4.00 点				4.0 点	4.0%
2. 施工状況	I. 施工管理	(4.0) × 0.4+0.9=		() × 0. 4+5. 5=	$(5.0) \times 0.2 + 2.75 =$	10.00	
		2.50 点		(5.0)×0.2+2.75= 3.75 点	3.75 点	10.0 点	10.0%
	Ⅱ. 工程管理	(4.0) × 0.4+4.4=	(2.0) × 0.2+3.6=			10.00	
		6.00 点	4.00 点			10.0 点	10.0%
	Ⅲ. 安全対策	(5.0) × 0.4+7.0=	$(3.0) \times 0.2 + 5.4 =$			15. 00	
		9.00 点	6.00 点			15.0 点	15.0%
	Ⅳ. 対外関係	(2.0) × 0.4+2.2=				3.00	
		3.00 点				3.0 点	3.0%
3. 出来形及び出来	I. 出来形	(4.0) × 0.4+0.9=		() × 0. 4+3. 5=	$(10.0) \times 0.2 + 1.75 =$	10.00	
ばえ		2.50 点		(10.0)×0.2+1.75= 3.75 点	3.75 点	10.0 点	10.0%
	Ⅱ. 品質	(5.0) × 0.4+3.0=		() × 0. 4+9. 0=	(15.0) × 0.2+4.5=	20. 00	
		5.00 点		(15.0)×0.2+4.5= 7.50 点	7.50 点	20.0 点	20.0%
	Ⅲ. 出来ばえ			() × 0. 4+8. 0=	(5.0) × 0.2+4.0=	10.00	
. — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	- 11			(5.0)×0.2+4.0= 5.00 点	5.00 点	10.0 点	10.0%
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応		(20.0) × 0.2+1.0=			5. 00	
- 41-4	_ ^		5.00 点			5.0 点	5.0%
5. 創意工夫	I. 創意工夫	$(7.0) \times 0.4 + 2.2 =$				5. 00	
a LL A LL MA	- 111 1 \ - 7 46 44	5.00 点				5.0点	5.0%
6. 社会性等	I. 地域への貢献等		(10.0) × 0.2+3.0=			5. 00	
- 37 4 4 31			5.00 点			5.0点	5.0%
7. 評定点計		((((100. 0	
(評定者別評定点)		(40.0 点)	(20.0 点)	(20.0 点)	(20.0 点)	100.0 点	
8. 法令遵守等			() ×1.0=			A	/
			- 0点			0 点	0.0%
9. 技術提案不履行			() ×1.0=			▲	
10 37 4 4 4 31			- 0点			0 点	0.0%
10. 評定点合計							
						100.0 点	
11. VE評価			() ×1.0=			ء ا	
			0 点			0 点	0.0%

^{※1} 得点割合は、評定点合計に対する得点の割合を百分率で示す。

評定点総合計 100 点

^{※2} ③主任検査員の計算は、品質管理中間検査が無ければ上段、実施が有れば下段で計算する。

^{※3} ④主任検査員(中間)の計算は、品質管理中間検査の結果に対する計算である。

別記様式第2-2

項目別評定点算出表 (品質中間評定)

項目	細別	①主任補助監督員	②監督員	③主任検査員	④主任検査員(中間)	細目別評定点	得点割合
1. 施工体制	I. 施工体制一般						
	Ⅱ. 配置技術者						
2. 施工状况	I. 施工管理				(5.0) +13.75= 18.75 点	18.75 18.75 点	18. 8%
	Ⅱ. 工程管理						
	Ⅲ. 安全対策						
	IV. 対外関係						
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形				(10.0) +8.75= 18.75 点	18.75 18.75 点	18. 8%
	Ⅱ. 品質				(15.0) +22.50= 37.50 点	37.50 点	37. 5%
	Ⅲ. 出来ばえ				(5.0) +20.00= 25.00 点	25.00 点	25. 0%
4. 評定点合計 (評定者別評定点)					(100.0 点)	100.0 点	

※1 得点割合は、評定点合計に対する得点の割合を百分率で示す。

評定点総合計

100 点

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任補助監督員用) 考查項目 細 別 d 1. 施工体制 I. 施工体制一般 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない やや不適切である 不適切である ●評価対象項目 □ 「工事現場における施工体制の点検表」の点検結果において、指摘事項が無い。 □ 施工体制一般に関して、監督員が文書 □ 施工体制一般に関して、監督員からの または、指摘事項に対する改善が速やかに(次回)実施された。 による改善指示を行った。 文書による改善指示に従わなかった。 □ 契約締結の14日以内に、契約工程表又は請負代金内訳書が提出された。(契約後、変更後) □ 作業分担の範囲を、施工体制台帳及び施工体制図に明確に記載している。 □ 建設業退職金収納書届又は未提出理由書を契約締結後1ヶ月以内に提出した。(契約後、増額変更後) □ 建設業退職金証紙の配布を受け払い簿等により適切に管理している。 □ 施工体系図に記載のない業者が作業していない。 □ 監理(主任)技術者、専門技術者及び下請負人の主任技術者が、工事名・工期・顔写真・所属等が入った名札を着用 1.ている □ 下請負人がNEXCO中日本の工事競争参加資格者である場合には、資格登録停止期間中でない。 □ 設計図書に掲げる事項を記載した施工計画書を、工事着手前に提出している。 また、施工計画書の承諾の必要な事項は工事着手1箇月前までに提出している。 □ 出来形、品質等の確認を工事全般にわたって実施する体制が、施工計画書等により明確化され有効に機能している。 □ 元請が下請の作業成果を検査している。 □ 施工計画書の内容と現場施工体制が一致している。 □ 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 □ 現場に対する本店や支店による支援体制を整えている。 □ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。 □ 機械設備、電気設備等について、製作工場における社内検査体制(規格値の設定や確認方法等)を整えている。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・ a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b (%)計算の値で評価する。 評価値が80%未満・・・・・c ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(17) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 Ⅱ. 配置技術者 (現場代理人等) 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない やや不適切である 不適切である ●評価対象項目 【全体を評価する項目】 □ 配置技術者に関して、監督員が文書 □ 配置技術者に関して、監督員からの □「工事現場における施工体制の点検表」の点検結果において、指摘事項が無い。 による改善指示を行った。 文書による改善指示に従わなかった。 または、指摘事項に対する改善が速やかに(次回)実施された。 □ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任及び配置している。 【現場代理人を評価する項目】 □ 現場代理人が、現場に常駐している。 □ 現場代理人が、工事全体を把握している。 □ 設計図書と現場との相違があった場合は、監督員と協議するなどの必要な対応を行っている。 □ 監督員への報告を適時及び的確に行っている。 【監理(主任)技術者を評価する項目】 □ 書類を共通仕様書及び諸基準に基づき適切に作成し、整理している。 □ 契約書、設計図書、適用すべき諸基準等を理解し、施工に反映している。 □ 施工上の課題となる条件(作業環境、気象、地質等)への対応を図っている。 □ 下請の施工体制及び施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。 □ 監理(主任)技術者が、明確な根拠に基づいて技術的判断を行っている。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b (%)計算の値で評価する。 評価値が80%未満・・・・・c ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(12) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

考査項目別運用表

g (1-1) - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	頁目の□にレマークを記入する。				(主任補助監督員用)
考查項目 細 另	-	b	C	d do do at the safe of	e z za za z
. 施工状況 I . 施工管理		はは適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
.施工状況 I.施工管理	●評価対象項目 □ 契約書 1 8 条第 1 項第 1 号から 5 □ 契約書 1 8 条第 1 項第 1 号から 5 □ 設計図書の照査において、現場とけた。 □ 施工計画書と現場施工方法が一致 □ 施工計画書と現場施工方法が一致 □ 現場条件の変化に対して、適切に □ 工事材料の品質に影響が無いよう □ 日常の出来形管理を、設計図書及 □ 現場のの品質管理を、設計図書及 □ 現場でのイメージアップに積極的 ○ 監督員の検査及び立会いの手続書 9 契約締結後、3 0 日 以内に工事 □ 契約締結後、3 0 日 以内に工事 □ 支給材料及び貸与品の引渡しを受 □ 建設副産物の再利用等への取り組	場条件を反映したものとなっている。 上対応している。 り保管されている。 なび施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 対応工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 対に取り組み、地域等より評価されるものがあ が事前になされている。 資を不足無く整理している。 手手している。 とけた後、7日以内に受領書又は借用書を提出 引みを適切に行っている。 長動型、排出ガス対策の建設機械及び車両を根	いる。 いる。 いる。 はしている。 E用している。	やや不適切である 応工管理に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	不適切である □ 施工管理に関して、監督員からの文書 による改善指示に従わなかった。
	評価値が80%未満・・・・・・c	(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(④ なお、削除後の評価対象項目数が:			
Ⅱ. 工程管理	i a	b	C	d	e
11. 工住官均	: a 適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	 不適切である
	□ 実施工程表の作成及びフォローア □ 現場条件の変更への対応が迅速で	りへの対応が適切であり、大きな工程の遅れか 引みを行っている。 遅れがない。 最が整理されている。	□ 工程管理に関して、監督員が文書 による改善指示を行った。	□ 工程管理に関して、監督員からの文書 による改善指示に従わなかった。	

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任補助監督員用) 考查項目 細 別 やや不適切であった 施工状況 Ⅲ. 安全対策 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない 不適切であった ●評価対象項目 □ 安全協議会等を設置し、活動記録が整備されている。 □ 安全対策に関して、監督員が文書 □ 安全対策に関して、監督員からの文書 □ 店社パトロールを1回/月以上実施し、記録が整備されている。 による改善指示を行った。 による改善指示に従わなかった。 □ 安全に関する研修・訓練等を半日/月以上実施し、その実施状況の報告がなされている。 □ 安全巡視、TBM、KY等を実施し、記録が整備されている。 □ 新規入場者教育の内容に、当該工事の現場特性を反映している。 □ 工事期間を通じて、労働災害及び公衆災害が発生しなかった。 □ 過積載防止に積極的に取り組んでいる記録等がある。 □ 使用機械、車両等の点検整備等が管理され、記録等がある。 □ 重機操作で、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされた点検記録等がある。 □ 仮設工の点検及び管理を、チェックリスト等により実施され、記録等がある。 □ 足場や支保工の組立完了時や使用中の点検及び管理がチェックリスト等により実施され、記録等がある。 □ 保安施設の設置及び管理を、各種基準及び関係者間の協議に基づき実施され、記録等がある。 □ 各種安全パトロールでの指摘事項や是正事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正報告した記録等が □ 事故・災害事例の収集に努め、作業員全員に周知し、自主的に改善策等を議論している。 □ 作業手順書の作成、全員周知、作業の実行、検証のPDCAを常に回している記録がある。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%未満・・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(16) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 IV. 対外関係 d а やや不適切である 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない 不適切である ●評価対象項目 □ 対外関係に関して、監督員が文書 □ 対外関係に関して、監督員からの文書 □ 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生が無い。 □ 地元との調整を行い、トラブルの発生が無い。 による改善指示を行った。 による改善指示に従わなかった。 □ 第三者からの苦情がない。もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。 □ 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。 □ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・b ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%未満・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任補助監督員用) 考查項目 □ 出来形の測定が、必要な測定項目につい 3. 出来形及 □ 出来形の測定が、必要な測定項目に □ 出来形の測定が、必要な測定項目につい □ 出来形の測定方法又は測定値が不適切で □ 契約書第17条に基づき、監督員が改善 ついて所定の測定基準に基づき行わ て所定の測定基準に基づき行われてお て所定の測定基準に基づき行われてお あったため、監督員が文書で改善指示を 請求を行った。 び出来ばえ れており、規格値を満足し、そのば り、測定値が規格値を満足し、そのばら り、測定値が規格値を満足し、a及びb 行った。 らつきが規格値の概ね50%程度以 つきが規格値の概ね80%程度以内であ に該当しない。 I. 出来形 る。 内である。 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 ① 出来形の評定は、工事全般を通じて評価するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「施工管理要領」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である が、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事はc評価とする。 造園工事 他の評価に該当しない □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 適切である ほぼ適切である □ 出来形の測定方法又は測定値が不適切 ※上記欄によ ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 らず、当該欄で □ 出来形測定結果又は試験結果等が適切にまとめられている。 示を行った。 評価 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理している。 □ 工事記録写真等撮影要領の管理項目を満足し、適切に管理している。 □ 支柱工や舗装工等の出来形又は製品の規格値を満足している。 □ 樹木材料の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足している。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b (%)計算の値で評価する。 評価値が80%未満・・・・・c ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 建築工事 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない □ 出来形の測定方法又は測定値が不適切 □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 ※上記欄によ ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 らず、当該欄で 示を行った。 □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫している。 評価 □ 社内の管理基準に基づき管理している。 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理している。 □ 附帯設備の据付及び固定方法を、設計図書又は承諾書通りに施工している。 □ 附帯設備の配管及び配線を、設計図書又は承諾書通りに敷設している。 □ 出来形又は製品の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足している。 □ 出来形又は製品の機能が設計値(設計図書)を満足している。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b (%)計算の値で評価する。 評価値が80%未満・・・・・c ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(9) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

別紙-1⑤

考查項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。

(主任補助監督員用) 考査項目 3. 出来形及 上記以外の 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない □ 出来形の測定方法又は測定値が不適切 □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 び出来ばえ 施設工事 ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図表を工夫している。 示を行った。 I.出来形 ※上記欄によ □ 機器等の測定(試験)結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理している。 らず、当該欄で □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 評価 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理している。 □ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 □ 設備の据付及び固定方法を、設計図書又は承諾書通りに施工している。 □ 配管及び配線を、設計図書又は承諾図書通りに敷設している。 □ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。 □ 用途や流れの方向を表示した名札が、電線管を除く配管の必要部分に分かり易く堅固に取り付けている。 □ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足している。 □ 社内の管理基準に基づき管理している。 □ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめている。 □ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめている。 □ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録している。 □ 設計図書に定められている予備品に不足がないことが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が90%以上・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・b (%)計算の値で評価する。 評価値が80%未満・・・・・c ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(16) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任補助監督員用) 考查項目 □ 品質の測定が必要な測定項目について所 3. 出来形及 □ 品質の測定が必要な測定項目につい □ 契約書第17条に基づき、監督員が改善 □ 品質の測定が必要な測定項目について所 □ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切 て所定の測定基準に基づき行われて 定の測定基準に基づき行われており、測 定の測定基準に基づき行われており、測 であったため、監督点が文書で改善指示 請求を行った。 び出来ばえ 定値が規格値を満足し、そのばらつきが おり、測定値が規格値を満足し、そ 定値が規格値を満足し、a、bに該当し を行った。 のばらつきが規格値の概ね50%以 規格値の概ね80%以内である。 ない。 Ⅱ.品質 内である。 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 品質の評定は、工事全般を通じて評価するものとする。 ② 品質とは、設計図書に示された工事目的物の規格である。 ③ 品質管理とは、「施工管理要領」の試験項目、試験基準及び規格値に基づくすべての段階における品質確保の管理体系 である。なお、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で品質管理を行うものである。 ④ 品質管理項目を設定していない工事はc評価とする。 诰園丁事 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない □ 品質関係の測定方法又は測定値が不適 □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 ※上記欄によ ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 らず、当該欄で 示を行った。 □ 土壌硬度調査及び土壌試験(PH)、現場透水試験を実施し施工に反映している。 評価 □ 活着が促されるように管理している。 □ 樹木などに損傷、鉢くずれ等がないよう保護養生を行っている。 □ 樹木等の生育に害のある害虫等がいない。 □ 根茎の状態が良好な材料を使用している。 □ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っており、植栽箇所に応じた樹木の向きや樹形となっている。 □ 肥料が直接樹木の根にふれないよう均一に施肥している。 □ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕している。 □ 支柱・添木をぐらつきがないよう設置している。 □ 樹木名標板を視認しやすい場所に据付けている。 □ 芝生は雑草の混入がない材料を使用している。 □ 芝生、マルチング、植栽箇所などの施工箇所に不陸や滞水がない。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・b ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%未満・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(13) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。

考查項目 3. 出来形及 建築工事 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない □ 品質関係の測定方法又は測定値が不適 □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 び出来ばえ ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 ※上記欄によ 「躯体工事] 示を行った。 らず、当該欄で Ⅱ.品質 □ 材料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足している。 評価 □ 材料の品質確認記録の内容が整理され、適切である。 □ 品質管理方法が施工計画書等で明確に記載されており、それに基づいた管理を実施している。 □ 施工の各段階における完了時の試験及び記録の内容が、適切である。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好である。 □ その他 内容: 理由: [仕上工事] □ 材料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足している。 □ 材料の品質確認記録の内容が整理され、適切である。 □ 品質管理方法が施工計画書等で明確に記載されており、それに基づいた管理を実施している。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好である。 一 その他 内容: 理由· 「設備工事」 □ 機材の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足している。 □ 機材の品質確認記録の内容が、適切である。 □ 施工の各段階における完了時の試験及び記録の内容が整理され、適切である。 □ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。 □ 施工の品質が施工記録等により確認でき、良好である。 □ 運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示又は防護等が明確で解りやすい。 □ 機器の機能及び性能に係わる成績書を整理している。 □ 配線、配管を承諾図書のとおり敷設している。 □ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・b ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%未満・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(21) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

(主任補助監督員用)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。

(主任補助監督員用) 考查項目 3. 出来形及 上記以外の 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない □ 品質関係の測定方法又は測定値が不適 □ 契約書第17条に基づき、監督員が改 び出来ばえ 施設工事 ●評価対象項目 であったため、監督員が文書で改善指 善請求を行った。 □ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施している。 示を行った。 Ⅱ.品質 ※上記欄によ □ 設備、機器の品質、機能及び性能が成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足している。 らず、当該欄で □ 設計図書に定められている品質管理を実施している。 評価 □ 設備全体としての運転性能が、所定の能力を満足している。 □ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出している。 □ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び簡所を明示している。 □ 完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備している。 □ 完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備している。 □ 設備の取扱い説明書を工夫している。 □ 中央局設備全体についての取扱説明書を工夫し作成(修繕(改造・更新含む)の場合は、修正又は更新)している。 □ 電気配線、配管を、承諾図書のとおり敷設している。 □ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫している。 □ 機器の配置が点検しやすいよう工夫している。 □ 現地状況を勘案し施工方法等について提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 □ 操作スイッチや表示灯を承諾図書のとおり配置され、操作性に優れている。 □ 平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示している。 □ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示している。 □ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめている。 □ 回転部や高温部、充電部等の危険箇所に表示又は防護をしている。 □ 溶接管理基準の品質管理項目について規定値を満足している。 □ 塗装管理基準の品質管理項目について規定値を満足している。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%未満・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(22) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

「記入方法」該当する項目の口にレマークを記入する。 (主任補助監督員用)

し記べり払」	図目 3 気目の	口にレマークを記入りる。			(主任補助監督員用)
考査項目	細 別			工 夫 事 項	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	【準備・後片づけ】			
		□ 測量・位置出しにおける工夫			
		□ その他(内容:	理由:)	
		【施工】	Z.H.		
		□ 施工に伴う器具・工具・装置等に関する〕	*************************************	ス丁土	
			,	る工大	
		□ コンクリート二次製品などの代替材の利用			
		□ 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンク			
		□ 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式なと			
		□ 設備工事における加工や組立等又は電気□			
		□ 給排水工事や衛生設備工事等における配管	予又はポンプ類の凍結防止策、配管のつ	なぎ等に関する工夫	
		□ 照明などの視界の確保に関する工夫			
		□ 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施□	に関する工夫		
		□ 運搬車両、施工機械等に関する工夫			
		□ 支保工、型枠工、足場工、仮桟橋、覆工材			
		□ 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関			
		□ 施工計画書の作成、写真の管理等に関する			
		□ 出来形又は質の計測、集計、管理図等に関			
		□ 面末形又は真の計例、乗引、自理凶寺に同 施工管理ソフト、土量管理システム等の活			
				Fortune Labora 7	
		□ ICT(情報通信技術)を活用した情報イ	心施工を取り入れた工事 L※本項目は2	点の加点とする。」	
		□特殊な工法や材料を用いた工事			
		□ 優れた技術力又は能力として評価する技術	. =		
		□ その他(<u>内容:</u>	理由:)	
		【品質】			
		□ 土工、設備、電気の品質向上に関するエラ	5		
		□ コンクリートの材料、打設、養生に関する	5工夫		
		□ 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次	は品等の使用材料に関する工夫		
		□ 配筋、溶接作業等に関する工夫			
		□ その他(内容:	理由:)	
		【安全衛生】	ZEH .		
		□ 労働災害に関するリスクマネジメントをF	提演学 ブロス 「 ※太頂日けり占 の	otm ሖ ጌ ተ አ ገ	
		・労働安全衛生マネジメントシステム()			
			, , - , - , - ,		
		・建設労働災害防止協会が定める指針に基			
		□ 安全を確保するための仮設備等に関する□		板、立人禁止柵、手摺り、足場等)	
		□ 安全教育、技術向上講習会、安全パトロー			
		□ 現場事務所、労務者宿舎等の空間及び設備			
		□ 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵♡	ち止策並びに作業中の換気等に関する工	夫	
		□ 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般な	ど通の安全確保に関する工夫		
		□ 厳しい作業環境の改善に関する工夫			
		□ ゴミの減量化、アイドリングストップの励	か行等の地球環境保全に関する工夫		
		□ その他(内容:	理由:)	
		【その他】			
		□ その他(内容:	理由:)	
		□ その他(内容:	理由:)	
		□ その他(内容:	理由:		
	記述評価	_ CALE (174.	【創意工夫の詳細評価】工夫の内容及	/ び具体的内容を記載	
	ルルロークを付	評点: 点	I MI M 工人V PH MI TI II II 工人V PH A A A	シスピリバはで 世界	
	した評価内容を	#T/m	<u></u>		
	詳細記述)				
	F,				

- ※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。
- ※2. 評価は各項目において各項目において1つレ点が付されれば、1、2点で評価し、最大7点の加点評価とする。
- ※3. 該当する数と重みを勘案して評点する。1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えてもよい。
- ※4. 上記の考査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体の内容を記載して加点する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(監督員用)

項目細	別	a	Ъ	С	d	е						
2. 施工状況 Ⅱ. 工程	管理 優和	ている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている						
	●評価対象項	目										
				を発生させることなく工事を完	· ·							
		□ 地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。										
					所速道路利用者に与える影響を車							
	, . ,		,		合において、余裕をもって工事	事を完成させた。						
			上点仕している場合において、	工程管理を的確に行い、余裕を	さって工事を完成させた。							
	□ C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	<u>内容:</u> 理由:										
	Alather H We	<u> </u>										
	●判断基準 上記該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e評価を行う。											
		上記該国力		D、C、a、e評価を117。								
Ⅲ. 安全		a	b	C	d	e						
	5-7.	ている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている						
	●評価対象項	. , .		77 - 14 1								
	□ 建設労働災害及び公衆災害の防止に向けた取り組みが顕著であった。 □ 安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。											
)の官理体制を整備し、組織的 う、他の模範となるような活動									
		, , _)、他の候配となるよりな佰動 引発や創意工夫に取り組んだ。	(二個型的)に取り担んだ。								
			が地域から評価された。									
	□ その他		7 7 1 3 1 m C 7 0 7 C 6									
		内容:										
		<u>内容:</u> 理由:										
	●判断基準											

「記入方法〕 該当する項目の□にレマーク、・に○を記入する。

考查項目 夶 策 】具体的な施工条件等への対応事例 4. 丁事特性 Ⅰ. 施丁条件等 Ⅰ 構造物の特殊性への対応 (1 について) への対応 □ 1.対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積 ・切土・盛土工:50万㎡以上 ・ケーソン:1基当たりの底面積100㎡以上、掘削深度30m以上 、施工深度等の規模が特殊な工事 ・トンネル:3車線以上の大断面トンネル、非常駐車帯等を含む長大(概ね2.0km以上)トンネル □ 2.対象構造物の形状が複雑であることな ・橋梁下部工の高さ:30m以上 ・橋梁上部工の最大支間長:100m以上 ・半地下構造の深さ:10m以上 どから、施工条件が特に変化する工事。 ・駐車台数250台以上の休憩施設のお手洗いの新築 □ 3.既設構造物の補強、撤去等特殊な工事 ・水噴霧設備を含むトンネル非常用設備の設置 •特別高圧の受配電設備の設置 □ 4.その他 • 交通管制中央局設備又は施設制御中央局設備の設置 ・集じん機を含むトンネル換気設備の設置 内容: (2.について) ・現地設計に基づいて、全体的な再設計が必要な工事 理由: 特殊型式の橋梁工事(アーチ橋、斜張橋、吊橋等) (3.について) ※上記の対応事項に1つ以上レ点がつけば ・既設橋と新設橋の一体拡幅又は既設トンネルにおける断面拡幅工事 4点の加点とする。 ・既設施設と新設施設の機能拡充又は構造の拡充を行った工事 ・運用中の既設設備機能を確保しながら設備の改造等を行った工事 (4.について) ・その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要である工事 ・その他、新技術又は新工法の適用など技術固有の難しさへの対応が必要である工事 ・地山強度が低い又は十被りが薄いため、FEM解析などによる検討が必要な工事 ・その他、コンピューターシュミレーション等が必要な設計や特殊な工法及び材料等を用いた工事 Ⅱ厳しい周辺環境等、社会条件への対応 (5.について) □ 5.地盤の変形、近接物工事、地中埋設物 ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事 ・監視などの結果に基づき、施工を行った工事 への影響に配慮する工事 ・市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事 □ 6.周辺環境条件により、作業条件、工程等 (6.について) に大きな影響を受ける工事 ・ガス管、水道管、電話線等の支承物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事 □ 7.周辺住民等に対する騒音・振動を特に ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事 ・そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事 配慮する工事 □ 8.現道上での交通規制に大きく影響する (7.について) 市街地での夜間工事 DID地区での工事 丁事 (8.について) □ 9.施工箇所が広範囲にわたる工事 □ 10.その他 ・日断面交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事 内容: ・日断面交通量が概ね1万台以上の道路で車線の切り回しを行った工事 理由: ・供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事 ・工事期間中の大半にわたって、交通解放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事 ※上記の対応事項に1つ以上レ点がつけば (9.について) 6点の加点とする。 ・作業現場が広範囲に分布している工事 (10.について) ・施工ヤードの広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事

(監督員用)

「記入方法」 該当する項目の□にレマーク、・に○を記入する。

(監督目用)

[記人力法]	該ヨ9つ頃日0	り口にレマーク、・に口を記入する。	
考査項目	細 別	対 策 事 項	【 事 例 】 具 体 的 な 施 工 条 件 等 へ の 対 応 事 例
4. 工事特性	I. 施工条件等	Ⅲ厳しい自然・地盤条件への対応	(11.について)
	への対応	□ 11.特殊な地盤条件への対応が必要な工事	・河川内の橋脚工事などにおいて、地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必
		□ 12.雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の	要な工事
		影響が大きな工事	・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した
		□ 13.急峻な地形での工事	工事
		□ 14.動植物等の自然環境の保全に特に配慮	・膨張性地山、多量の湧水、地質構造線による断層破砕帯などを通過したトンネル工事
		しなければならない工事	・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事
		□ 15.その他	(12.について)
		内容:	・海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船
		理由:	を使用する工事
			・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事
		※上記の対応事項に1つ以上レ点がつけば	(13.について)
		4 点の加点 とする。	・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事
			(法面工は除く)
			・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事
			(14.について)
			・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事
			(15.について)
			・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事
			・その他、災害等における臨機の措置のうち、特に評価すべき事項が認められる工事
		IV長期工事における安全確保への対応	(16.について)
		□ 16.12ヶ月を超える工期で、事故が無く完成	※「工期」とは、監理技術者又は主任技術者が専任を要する期間をいう。
		した工事	※「事故」には、口頭注意以下の措置を講じた工事関係者事故又は公衆災害は含めない。
		□ 17.その他	(17.について)
		内容:	・24ヶ月を超える工期で、事故が無く完成した工事は、「16.の点数」に3点を加点する。
		理由:	・36ヶ月を超える工期で、事故が無く完成した工事は、「16.の点数」に6点を加点する。
			・48ヶ月を超える工期で、事故が無く完成した工事は、「16.の点数」に9点を加点する。
		※「16」に該当する工事は 6点の加点 と	※ただし、考査項目「8.法令順守等」における「措置内容6.」及び「7.」に該当する事故等(口頭注意以下の措置を
		する。	講じた工事関係者事故又は公衆災害)が2回以上発生した場合は、「16.」における上記の加点評価は行わない。
		※右欄の加点事項に該当する場合は、	
		「17. の理由」に加算する点数を記入	
		して、評点に反映させる。	

[記入方法] 該当する項目の□にレマーク、・に○を記入する。

(監督員用)

考查項目	細別	対 策 事 項 【	事例】具体的な施工条件等への対応事例
4. 工事特性		V 短期集中工事における安全確保への対応 □ 18.12ヶ月未満の工期で、事故が無く完成 し、右欄に該当する工事 連続延べ労働時間: 時間 加算する点数: %「工期」とは ※「事故」にに	の連続延べ労働時間の最大値が10,000時間以上工事は、3点を加点する。 の連続延べ労働時間の最大値が50,000時間以上工事は、6点を加点する。 の連続延べ労働時間の最大値が100,000時間以上工事は、9点を加点する。 は、監理技術者又は主任技術者が専任を要する期間をいう。 は、考査項目「8.法令順守等」における「措置内容6.」及び「7.」に該当する事故等(口頭注意以下の措置 に事関係者事故又は公衆災害)は含めない。
	評価	評 点: <u>点</u>	

※1. 工事特性は、原則として最大20点の加点評価とする。

ただし、IV長期工事における安全確保への対応における「17.の理由」による加点及びV短期集中工事における安全確保への対応における「18.の加算する点数」による加点の場合は、20点を超えて評価できるものとする。(評定点の合計が100点を超える場合もあり得る。)

※2. 評価にあたっては、副監督員及び主任補助監督員等の意見も参考に評価する。

「記入方法〕該当する項目の□にレマークを記入する。

(監督昌用)

項目	細別	a a	a'	b	b '	C (無 貞 貞 //1/									
6.社会性等	I地域への貢献等	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない									
		●評価対象項目													
		(河川、海岸等の環	□ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 (河川、海岸等の環境保全を具体的に実施した。または、国立公園や県立公園等及び周辺地域等の環境保全、 動・植物への保護等に積極的に取り組んだ。)												
		□ 現場事務所や作業現	場の環境を周辺地域との景	- 観に合わせるなど、積極的	的に周辺地域との調和を図っ	た。									
		□ 定期的に広報紙の配	布や現場見学会等を実施し	て、積極的に地域とのコ	ミュニケーションを図った。										
		□ 道路清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。													
		ンを図った。													
		□ 災害時などにおいて	、地域への支援又は行政な	支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。											
											に任意で使用できる	する高炉セメントB種又は セメントの場合において積 いて、当該セメントを50	責極的に使用した。	B種を設計図書に規定するコ	ンクリートの種別毎
		による認定を国土交	する「CO2排出低減建設 通省から受けた型式のもの 入機械の安衛則による検査)) を積極的に使用した。	咸に資する低燃費型建設機械 もの)	の指定に関する規程」									
		□ その他 <u>内容:</u> 理由:													
		●判断基準 上記該当項目を総合	・的に判断して、a、a'、	b、b'、c評価を行う。											

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(監督員用)

考 査 頃 目	法令遵守等の該当項目一覧表	
法令遵守等		
	措 置 内 容	点 数
	□ 1. 資格登録停止 3 ヶ月以上	- 20 点
	□ 2. 資格登録停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満	一 15 点
	□ 3. 資格登録停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満	一 13 点
	□ 4. 資格登録停止 2 週間以上 1 ヶ月未満	- 10 点
	□ 5. 文書警告	- 8点
	□ 6. 口頭注意	- 5点
	□ 7. 工事関係者事故または公衆災害が発生したが、口頭注意以上の処分がなかった場合 (もらい事故や交通事故は含まない。)	- 3点
	□ 8. その他 理由:	- 点
	□ 9. 項目該当なし	
	① 本評価項目 (8. 法会遵守等) で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の指	#置があった場合にi

- ② 「施工」とは、請負契約書の記載内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。
- ③ 「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、受注者の現場従事職員及び当該工事にあたって下請契約し、 それを履行をするために従事する者に限定する。
- ④ 複数の措置内容が存在する場合は、各措置内容に応じた資格登録停止月数を加算して、加算した月数に応じた点数で評価する。 ただし、短期加重措置に基づく措置内容を適用した場合は、短期加重後の措置内容に応じた資格登録停止月数を加算して、加算した月数に応じた 点数で評価する。なお、文書警告又は口頭注意もしくは処分無しの場合は点数を加算せず、上位の措置内容の点数で評価する。

【上記で評価する場合の適応事例】 (※該当するものに○)

- ・ 1. 入札前に提出した確認資料などにおいて、虚偽の事実が判明した。
- ・ 2. 承諾なしに権利又は義務を第三者に譲渡又は承継した。
- ・ 3. 使用人に関する労働条件に問題があり送検された。
- ・ 4. 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取などの関係法令に違反する事実が判明した。
- ・ 5. 当該工事関係者が贈収賄などにより逮捕又は公訴された。
- ・ 6. 一括下請や技術者の専任違反などの建設業法に違反する事実が判明した。
- 7. 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検された。
- ・ 8. 労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。
- ・ 9. 監督又は検査の実施を、不当な圧力をかけるなどにより妨げた。
- ・ 10. 下請代金を期日以内に支払っていない、不当に下請代金の額を減じているなど下請代金支払遅延等防止法第4条に規定する親事業者の遵守事項 に違反する行為がある。
- ・ 11. 過積載等の道路交通法違反により逮捕又は送検された。
- ・ 12. 受注企業の社員に「指定暴力団」又は「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等の暴力団関係者がいること が判明した。
- ・ 13. 下請に暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」第9条に記されている、砂利、 砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。
- ・ 14. 工事関係者事故又は公衆災害を起こした。

[VE	提案評価基準]				(監督員用)
	VE提案に係る	評価項目	着目点		評 価	
共	発注者の主旨の	の理解度	発注者のニーズを理解した的確な提案である 等	a	b	С
通	提案の独創性		新技術・新工法の採用、提案内容の創意工夫 等	a	b	С
考	施工計画		安全確保等の信頼性、施工計画・仮設計画の確実性、施工期間の短縮、提案資料等の充実等	a	b	С
查	コスト低減効果 提案工種におけるコスト縮減効果 等				Ъ	С
項	社会的ニーズ・	への配慮	環境対策、リサイクルへの取り組み等	a	Ъ	С
目	技術の展開性 今後の類似工事への適用、大きな技術的波及効果 等		a	b	С	
個別考	考査項目 (具体的に記入)				b	С
	_					
評	提出されたV	E提案に関して	て、提案の独創性・コスト低減効果等を各考査項目から総合的に評価するものとする。			
		・考査項目に	a 判定が2つ以上ある。			
定	優	・考査項目に	a 判定が 1 つあり、かつ b 判定が 3 つ以上ある。			
		・考査項目に	a 判定が 1 つあり、かつ b 判定が 2 つ以下の場合にも、コスト低減効果の判定が a の場合は、「個	憂」と判定して	もよい。	
結	良	・考査項目に	a 判定が 1 つあり、かつ b 判定が 2 つ以下である。			
		・考査項目に	b 判定が2つ以上あり、かつ、a 判定がない。			

- 注1) 評定は、VE提案審査会の審査及び各考査項目の評価を踏まえ総合的に判断し、3段階に評定を行う。なお、優・良・可の順番に判断するものとする。
 - 2) 個別考査項目は、工事毎に提案内容に応じて設定する。

・考査項目にa判定、若しくはb判定がない。

- 3) 考査項目における a, b, c評価の判定基準は、『a:とても優れている』、『b:優れている』、『c:普通』とする。
- 4) 該当する考査項目等を評価対象とし評価する。

[VE提案実施状況評価基準]

(監督員用)

施工状況等に係る評価項目	着 目 点		評 価					
施工状況	提案通りの施工が行われたか							
	提案部分に係る工程管理が適切であったか		b					
	品質確保対策、安全対策等は十分であったか	a		С				
	提案に係る工事記録等が適切に整理されているか 等							
施工プロセス	提案に関して監督職員との意思疎通は十分であったか							
	提案に起因した事故等、問題発生の有無	a	b	С				
	問題等が発生した場合に適切な対応を行ったか 等							
出来形及び出来ばえ	提案部分の出来形が規格値等を満足しているか							
	提案部分の品質のばらつきは小さいか	a	b	С				
	提案部分の仕上げがきめ細かく、美観が良いか 等							
性能の発揮	提案通りの性能が得られたか	a	b	С				
(所見記入欄)		l	<u> </u>	L				
評 採用され実施したVE提	案に関して、施工状況・施工プロセス等を各考査項目から総合的に評価するものとする。							
定 A・考査項目に	定 A ・考査項目に a 判定が 1 つ以上あり、かつ C 判定がない。							

評	採用され実施したVE提案に関して、施工状況・施工プロセス等を各考査項目から総合的に評価するものとする。				
定		A	・考査項目に a 判定が 1 つ以上あり、かつ C 判定がない。		
結		В	・考査項目に b 判定が 1 つ以上あり、かつ C 判定がない。		
果		С	・考査項目にC判定が1つ以上ある。		

- 注1) 評定は、VE提案審査会の審査及び各考査項目の評価を踏まえ総合的に判断し、3段階に評定を行う。なお、A・B・Cの順番に判断するものとする。
 - 2) 所見については、VE提案等に係る部分に着目し記入する。
 - 3) 考査項目における a, b, c評価の判定基準は、『a:優れている』、『b:満たしている』、『c:満たされていない』とする。
 - 4) 該当する考査項目等を評価対象とし評価する。

[VE適用工事における評価基準]

(監督員用)

VE提案評価	VE提案実施状況評価	提案及び実施状況に係る 総合評価	適用
	A	3 点	提案がとても優れており、実施状況も優れている。
優	В	3 点	提案がとても優れており、実施状況が提案内容を満たしている。
	С	2 点	提案はとても優れているが、実施状況が提案を満たされていない。
	A	3 点	提案は優れており、実施状況も優れている。
良	В	2 点	提案は優れており、実施状況が提案内容を満たしている。
	С	1 点	提案は優れているが、実施状況が提案を満たされていない。
	A	2 点	提案は普通であるが、実施状況が優れている。
可	В	1 点	提案は普通であり、実施状況が提案内容を満たしている。
HJ	С	1 点	提案は普通であるが、実施状況が提案を満たされていない。
		0 点	提案された内容が評価に値せず採用しなかった場合。
		0 点	提案がされなかった場合。

注1) VE評価は、VE提案に係る評価とVE提案の実施状況に係る評価とを総合的に判断し、4段階に評定を行う。

²⁾ VE評価は、入札時VE及び契約後VE共に、当該評価基準で評価を行う。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考査項目 細 別 h d 2. 施工状況 I. 施工管理 優れている やや優れている 他の評価に該当しない やや劣っている 劣っている ●評価対象項目 □ 施工管理について、監督員が文書に □ 施工管理について、監督員からの文 □ 契約書18条第1項第1号~5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。 よる改善指示を行った。 書による改善指示に従わなかった。 □ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映した ものとなっていることが確認できる。 □ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。 □ 現場条件又は計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更施工計画書を提出していることが確認で きる。 □ 工事材料の品質に影響が無いよう工事材料を保管していることが確認できる。 □ 検査及び立会いの手続きを事前に行っていることが確認できる。 □ 建設副産物の再利用等への取り組みを適正に行っていることが確認できる。 □ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で適確に整備していることが確認できる。 □ 出来形、品質等の確認体制が確立され、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。 □ 工事の関係書類を定められた期日に提出し、不足なく簡潔に整理していることが確認できる。 □ 工事記録写真撮影要領の管理項目を満足していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・b ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が80%未満・・・・・c (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(12) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

(主任検査員用)

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 h' □ 出来形の測定が、必要 □ 出来形の測定が、必要 □ 出来形の測定が、必要 □ 出来形の測定方法又は □ 出来形の測定方法又は 3. 出来形及 □ 出来形の測定が、必要 □ 出来形の測定が、必要 な測定項目について所 な測定項目について所 な測定項目について所 な測定項目について所 な測定項目について所 測定値が不適切であっ 測定値が不適切であっ び出来ばえ たため、監督員が文書 たため、検査員が修補 定の測定基準に基づき 定の測定基準に基づき 定の測定基準に基づき 定の測定基準に基づき 定の測定基準に基づき 行われており、測定値 行われており、測定値 行われており、測定値 行われており、測定値 行われており、規格値 で指示を行い改善され 指示を行った。 I. 出来形 が規格値を満足し、そ が規格値を満足し、そ が規格値を満足し、そ が規格値を満足し、そ を満足し、a~b'に た。 のばらつきが規格値の のばらつきが規格値の のばらつきが規格値の のばらつきが規格値の 該当しない。 概ね80%以内で、下 概ね50%以内で、下 概ね80%以内で、下 概ね50%以内で、下 記の「評価対象項目」 記の「評価対象項目」 記の「評価対象項目」 記の「評価対象項目」 の3項目以上が該当す の3項目以上が該当す の2項目以上が該当す の4項目以上が該当す ●評価対象項目 □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 出来形は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「施工管理要領」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c | 評価とする。 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 **造園工事** h А а е bより優れている cより優れている 他の評価に該当しない 優れている やや優れている やや劣っている 劣っている ※上記欄によ ●評価対象項目 □ 出来形の測定方法又は □ 出来形の測定方法又は 測定値が不適切であっ 測定値が不適切であっ らず、当該欄 □ 出来形測定結果又は試験結果等が適切にまとめられていることが確認できる。 たため、検査員が修補 たため、監督員が文書 で評価 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 指示を行った。 で指示を行い改善され □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 工事記録写真等撮影要領の管理項目を満足し、適切に管理していることが確認できる。 □ 支柱工や舗装工等の出来形又は製品の規格値を満足していることが確認できる。 □ 樹木材料の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) 評価値が60%未満・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考查項目 T. 種 h ' Ы е 他の評価に該当しない やや劣っている 劣っている 3. 出来形及 建築工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている び出来ばえ □ 出来形の測定方法又は □ 出来形の測定方法又は ●評価対象項目 ※上記欄によ 測定値が不適切であっ 測定値が不適切であっ □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図表を工夫していることが確認できる。 たため、監督員が文書 たため、検査員が修補 I. 出来形 らず、当該欄 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 で指示を行い改善され 指示を行った。 で評価 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □ 附帯設備の据付及び固定方法を、設計図書又は承諾書通りに施工していることが確認できる。 □ 附帯設備の配管及び配線を、設計図書又は承諾書通りに敷設していることが確認できる。 □ 上記以外の出来形又は製品の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足し、出来形の確認ができる。 □ 上記以外の出来形又は製品の機能が設計値(設計図書)を満足し、出来形の確認ができる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(9) 評価値が60%未満・・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 上記以外の h' А 施設工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない やや劣っている 劣っている ●評価対象項目 □ 出来形の測定方法又は □ 出来形の測定方法又は 測定値が不適切であっ 測定値が不適切であっ ※上記欄によ □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図表を工夫していることが確認できる。 たため、監督員が文書 たため、検査員が修補 □ 機器等の測定 (試験) 結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。 らず、当該欄 で指示を行い改善され 指示を行った. □ 出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 で評価 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であり、出来形の確認ができる。 □ 設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾書通りに施工していることが確認できる。 □ 配管及び配線が、設計図書又は承諾書通りに敷設していることが確認できる。 □ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けていることが確認できる。 □ 用途や流れの方向を表示した名札が、電線管を除く配管の必要部分に分かり易く堅固に取り付けていることが確認できる。 □ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 □ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 □ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録していることが確認できる。 □ 設計図書に定められている予備品に不足がないことが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(16) 評価値が60%未満・・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

r⇒== +×4-1	チルティエロッ	72 5 7 7		<u>行且设计加建/11数</u>	(0.97093)人里/(3)			(~K************************************
考查項目	該当する項目のL 工種	□にレマークを記入する。 -	а,	b	b '	_	d	(主任検査員用) e
	.—	a 口口所用なの対験仕用のど	<u>■ a</u> ばらつきと評価対象項目の履行			С	□ 品質関係の測定方法又	e □ 品質関係の測定方法又
び出来ばえ	上小工事(1/5)		理要領、その他設計図書に定る 理要領		(刊剛基準参照/		は測定値が不適切で	は測定値が不適切で
0.田木はん		※ ばらつきの判断は別		クライリンドの表			あったため、監督員が	あったため、検査員が
Ⅱ. 品質		A 14 O DE VO NIBITADO	1/MC I \$ 1/1/10				文書で指示を行い改善	修補指示を行った。
п. ш д		●評価対象項目					さ わた	
		「コンクリート構造物]						
			度・w/c・最大骨材粒径、均	点化物総量、単位水量、アルコージング	カリ骨材反応抑制等) が確認	界できる。		
			たい要な試験を実施しており ないでは、					
			たコンクリート供試体が、当		0.47 = 11.11.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1			
		□ 施工条件や気象条件に通	通した運搬時間、打設時の投入	高さ及び締固め方法が、定め	られた条件を満足している	ことが確認できる。		
		(寒中及び暑中コンクリ	一ト等を含む)					
		□ コンクリートの圧縮強度	Eを管理し、必要な強度に達し	た後に型枠及び支保工の取り	外しを行っていることが確認	認できる。		
		□ コンクリートの打設前に	二、打継ぎ目処理を適切に行っ	ていることが確認できる。				
		□ 鉄筋の規格がミルシート	、で確認できる。					
		□ コンクリート打設までに	こさび、どろ、油等の有害物が	鉄筋に付着しないよう管理し	ていることが確認できる。			
		□ 鉄筋の組立及び加工(カ	いぶり、ピッチ、溶接していな	いか等) が、設計図書の仕様	を満足していることが確認	できる。		
		□ 鉄筋の継手(ラップ長、	圧接、機械継手等)を適切に	施工しており、適切な時期に	書類を提出していることが	確認できる。		
		□ コンクリートの養生が、	設計図書の仕様を満足してい	ることが確認できる。				
		□ スペーサーの品質及び個	国数が、設計図書の仕様を満足	していることが確認できる。				
		□ ジャンカ・砂すじ等が少	>なく、かつ適正に補修がなさ	れ、セパレータの後処理も適	切に行っていることが確認	できる。		
			頁を適切な時期に提出している					
			惺(管理図・試験頻度等)を適		できる。			
			叵していることが確認できる。	(基準試験・日常管理試験)				
		□ 有害なクラックが無い。						
		□その他						
		内容:						
		理由:						
		[切盛土工]	40 1 5 1 - Mil 1. 41/46 4 1744	1 フェールジカーコー・ナ				
			ないように、排水対策を実施					
			⊆行っていることが確認できる テうにあたり、掘削面以下を乱	•	しぶか到ったセフ			
			」りにめにり、畑削囲以下を乱 うられた条件を満足しているこ		とが唯恥できる。			
)られに栄件を両足しているこ 『を管理していることが確認で					
			そを官理していることが確認で 計図書に定められた条件で行		(原本圧 独小如の歩工)			
			計図書に足められた米件で11 ト器(透過型RI水分密度計器		(),,,,			
			「盆(返過至KIホガ塩度可益 「ング及びたわみ測定試験を適					
						に行っていることが確認できる。		
		,,	* で有用収工として使用する場 で理に必要な試験を行っている		(を音まないよ)肥工を適正)	に打りていることが帷幄できる。		
		□ CBK試験などの品質目□ のり面に有害な亀裂が無						
			•	押め戻し部よ周辺地般と同	笑以上の支持力があり 雨:	水による侵食がないことが確認て	5	
		きる。	THE STATE OF THE S	、生の戻し即り周辺地霊と同	THE TOURS OF THE	がによる反反がなく ことが確認く		
)ラウンディング処理を適正に	実施していることが確認でき	る。			
			って、動態観測結果を的確に施					
			1理を適切に行っていることが		0			1
		□その他						
	1	内容:						
	1	理由:						
1								
							+	+

[記入方法]	該当する項目の□]にレマークを記入する。						(主任検査員用)
考査項目	工種	a	a'	b	Ъ'	С	d	е
	十.木工事(2/5)	□ 品質関係の試験結果のばら		· 況(評価値)から判断する 〈	_	-	□ 品質関係の測定方法又	□ 品質関係の測定方法又
び出来ばえ	工/(工事(2/0)		要領、その他設計図書に定め		11的至十多州/		は測定値が不適切で	は測定値が不適切で
い山米はん				040/こみ映」			あったため、監督員が	あったため、検査員が
		※ ばらつきの判断は別紀	ç— 4 参照。				文書で指示を行い改善	修補指示を行った。
Ⅱ. 品質							入自 (旧パ E 口 V 以 日 くわた	
		●評価対象項目						
		「のり面工」						
		【共通】						
		□ 施工基面を平滑に仕上げて	コンステ しが放射 できる (株)	このり 林丁 コンカリ・トワ	けてルカル吹仕工則核)			
		□ 施工に際して、品質に害と						
		□ 盛土の施工にあたり、のり			が確認できる。			
		□ 雨水による崩壊が起こらな	;いように、排水対策を実施し	ていることが確認できる。				
		□ その他						
		内容:						
		理由:		-				
		【種吹付工、植生基材吹付工関係】						
				ていり フの仕用ませてに	ニー・コー・フェー・ジャー・キュ	,		
		□のり面調査(土壌調査、の				٥.		
		□ ネットなどの継目が1目半		に隙間が生じていないこと	が確認できる。			
		□ ネットなどが破損を生じて	「いないことが確認できる。					
		□ 吹付け厚さが均等であるこ	とが確認できる。					
		□ 使用する材料の種類、品質	・配合等が設計図書の仕様を	満足していることが確認で	きる。			
		□ 施工時期が定められた条件						
		□ その他	と個人とくくることが確認し	6.20				
		· _						
		内容:						
		理由:						
		【コンクリート又はモルタル吹付コ	[関係]					
		□ 使用する材料の種類、品質	[及び配合が、設計図書の仕様	を満足していることが確認っ	できる。			
		□ 金網の継目が1目半以上重	はね合わせてあり、境界に隙間	が生じていないことが確認。	できる。			
		□ 金網が破損を生じていない			-			
		□ 吸水性の吹付け面において		1 ていステレが確認できる				
		□ 吹付けを2層以上に分けて						
		□ 圧縮強度試験に使用したコ						
		□ 不良箇所が生じないよう跳		'っていることが確認できる。				
		□ 水抜孔の施工が適正である	,ことが確認できる。					
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		【現場打ち枠工及び吹付のり枠工	(コンクリート枠丁今ま) 関む	š l				
		□使用する材料の種類、品質		•	キマ			
					3 O.			
		□ 現場養生が、設計図書の仕						
		□ 圧縮強度試験に使用したコ		現場の供試体であることが	確認できる。			
		□ 枠の鉄筋の下に空洞がない	いことが確認できる。					
		□ 打継ぎ目は横梁の中央に設	けており、継目処理を適切に	行っていることが確認できる	る。			
		□ 不良箇所が生じないよう別	kね返り材料の処理を適切に行	っていることが確認できる。				
		□その他						
		内容:						
		<u>四日:</u> 理由:						
		【切土補強土工関係】						
		□ 使用する材料の種類、品質						
		□ 急勾配掘削の場合、動態観	提測を設計図書に基づき実施し	ており、観測結果を的確に加	施工に反映していることが確 認	忍できる。		
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		<u><</u>						

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考査項目 工 種 a h h С Ы 3. 出来形及 十木工事(3/5) □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 び出来ばえ は測定値が不適切で [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] は測定値が不適切で あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ 品質 ●評価対象項目 「基礎工事及び地盤改良工事」 【既成杭関係(コンクリート・鋼管・鋼管井筒等)】 □ 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。 □ 杭の打止め管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 □ 水平度、鉛直度等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 杭の現場溶接継手の施工及び品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に基づき施工記録が適切に整備されていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由· 【場所打ち杭関係】 □ 支持地盤に達していることが、既存の土質データとの比較や掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。 □ 場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。 □ 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度、比重等が設計図書を満足していることが確認できる。 □ 配筋、スペーサーの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ コンクリートの余盛や杭頭の処理が適切で、杭本体を損傷していないことが確認できる。 □ ライナープレートの組み立てにあたり、脱落、変形、ゆるみがなく適切に設置されていることが確認できる。 □ 水平度、鉛直度等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に基づき施工記録が適切に整備されていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由・ 【ケーソン関係】 □ 刃口の据付が適切であることが確認できる。 □ 支持地盤に達していることが、既存の土質データとの比較や掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。 □ 配筋、スペーサーの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 水平度、鉛直度等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に基づき施工記録が適切に整備されていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 【地盤改良工事】 □ 改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。 □ 事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。 □ 施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由:

考查項目別運用表(しゅん功檢査用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考査項目 工 種 а h С А 3. 出来形及 十木工事(4/5) □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] は測定値が不適切で あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ 品質 ナカナ ●評価対象項目 「地すべり対策工(抑止杭・集水井戸工事を含む)] □ アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。 □ ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 □ ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。 □ 集・排水ボーリング工の方向及び角度が、適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: [トンネルT] □ ロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に定められた岩区分(支保エパターン含む)の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。 □ 坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 設計図書に基づき計測管理を行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。 □ 金網の継目を1目以上重ね合わせていることが確認できる。 □ 吹付けコンクリートの施工は、掘削後入念に浮石等を除いた後に直ちに施工し、一層の厚さが15cm以下で地山と密着するよう施工している ことが確認できる。 □ 吹付けコンクリート施工面の湧水処理を適切に行っていることが確認できる。 □ 吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、すでに吹付てある面を清掃した上、湿潤状態で施工していることが確認できる。 □ 吹付け面が平滑に仕上がっていることが確認できる。 □ ロックボルトの充てん材が十分に充てんされ、挿入・締付け(ネジ山の残長)が適切に行われ、プレートが正しくセットされていることが確認 できる。 □ 防水シート施工面は、ロックボルト等突起物にモルタルや保護マットなど保護材で防護対策を行っていることが確認できる。 □ 覆エコンクリートの打継目の処理は、切欠き構造となっていることが確認できる。 □ 覆エコンクリート型枠脱型時期を実際の養生条件と合わせた供試体を用いて強度試験を実施して決定していることが確認できる。 □ 覆工コンクリートは、型わくと吹付けコンクリートとの間に空隙がないことが確認できる。 □ 排水工は湧水状況を確認し、適切に設置されていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由:

(主任檢查員用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考査項目 工 種 a h h С Ы 3. 出来形及 十木工事(5/5) □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] は測定値が不適切で あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ 品質 ナカナ ●評価対象項目 「護岸・根固・水制工] □ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 □ 裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。 □ 緑化ブロック、石積(張)、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しが無いように行っていることが確認 できる。 □ 石積(張)工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。 □ 遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 根周工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 指定材料の品質が、証明書類で確認できる。 □ 基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。 □ コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。 □ 施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。 □ 埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 有害なクラックが無い。 □ その他 内容: 理由: 「海岸工」 □ コンクリートブロックの転置及び仮置にあたって、強度確認を行っている。 □ 転倒や崩壊等が無いようにコンクリートブロックの仮置を行っていることが確認できる。 □ 捨石基礎の敷均し面を平坦に仕上げていることが確認できる。 □ 工事期間中、1日1回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。 □ 台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(134) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 а' b b а 75%以上90%未満 b b' 価 60%以上75%未満 Ъ, С С 60%未満 h C 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

(主任檢查員用)

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考查項目 T. 種 h' □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 舗装工事(1/2) □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 「路盤工関係] □ 設計図書に基づき、路盤準備工の材料試験、路盤準備工及びプルーフローリングを行っていることが確認できる。 □ 設計図書に基づき路盤の本施工時に日常管理試験を実施しており、路盤の品質(締固め度、たわみ)が確認できる。 □ 路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工し、混合物の含水比、セメント量等が整理、記録されていることが確認できる。 □ 路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 □ 路盤工において、端部、狭小部の締固めを十分に行っていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 「アスファルト舗装工関係」 □ プラントにおける材料保管状況が良好であることが確認できる。 □ 設計図書に基づき施工前に材料試験、配合試験及び試験練りを実施していることが確認できる。 □ 舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 □ プラント出荷時・現場到着時・舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。 □ 舗設後の交通開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。 □ 各層の継目の位置を、設計図書に定められた数値以上ずらしていることが確認できる。 □ 継目又は構造物との接触面をよく清掃したのちにタックコートを行っていることが確認できる。 □ アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。 □ 瀝青材散布量が監督員の指示どおりで、整理・記録されていることが確認できる。 □ 締固め度が設計図書の仕様を満足し、整理・記録されていることが確認できる。 □ 路面切削を適切に行っていることが確認できる。 □ 舗装廃材が設計図書に基づき適切に処理されてることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 「床版防水工関係] □ 施工面の清掃を行っていることが確認できる。 □ 施工後の養生を行っていることが確認できる。 □ シート系防水材の重ね合わせが確実に行われていることが確認できる。 □ 塗布系防水材の温度及び使用量の管理が確実に行われていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由:

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 h' 3. 出来形及 舗装工事(2/2) □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 [コンクリート舗装工関係] □ コンクリートの品質(強度・w/c・最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度・スランプ・空気量等の測定結果が確認できる。 □ 圧縮強度試験等に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法及び養生方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。 (寒中及び暑中コンクリート等を含む) □ 材料が分離しないようにコンクリートを敷き均していることが確認できる。 □ チェアー及びタイバーを損傷などが発生しないように保管していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(31) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 а 75%以上90%未満 a h Ъ, 60%以上75%未満 Ъ' b С С 60%未満 b' С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

記人万法	該当する項目の「	□にレマークを記入する。						(主任検査員用)
考査項目	工種	a	a '	b	b '	С	d	e e
	PC橋、鋼橋上 部工工事(1/2)	□ 品質関係の測定方法又 は測定値が不適切で あったため、監督員が 文書で指示を行い改善 された	□ 品質関係の測定方法又 は測定値が不適切で あったため、検査員が 修補指示を行った。					
11. 品質		□□	に必要な試験を実施にないない。 にたことで確認である。 を実施したが投入 にたことで確認で必要に、対して確認では、対してででででは、 を実施したがでする。 を実施したのででである。 を実施したのででである。 を連びででである。 をでででででででいるでである。 を変が、がいる。 にてでででででいるででである。 を変が、がいる。 にでででででででいるででである。 を変が、がいる。 にでででででででいるででである。 を変が、がいる。 をできなび、どろる。 を変が、がでいる。 を変が、がでいる。 を変が、かいる。 をできなび、ででできないでである。 を変が、がいる。 をできなび、ででいる。 を変が、がいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでいる。 をできないでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでいる。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでいる。 をできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にでできないでは、 にいるといる。 をできないでは、 にいるといるといる。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないでいる。 をできないできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできない。 をできないできないできない。 をできないできないできない。 をできないできないできないできないできない。 をできないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	通切に実施していることが確認 (基準試験・日常管理試験) 大験の試験値が、設計図書の担し 大験の試験値が、設計図書で担し としていることが確認できる。 され、セパレータの後処理も適い。 いる。 の仕様を満足していることとが確認できる。 がががいることとが確認できる。 は、構造物と同様な養生条件に の仕様を満足していることが確認できる。 の仕様を満足していることが確認できる。 の仕様を満足していることが確認できる。 の仕様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。 のは様を満足していることが確認できる。	の測定結果が確認できる。 に認できる。 いれた条件を満足していることが確認できる。 外しを行っていることが確認できる。 は様を満ことが確認できる。 は様でいることが確認できる。 はいることが確認できる。 は認でできる。 にできるる。 になかれた供試体を用いている。 にとが確認では、おかれた供試体を用いている。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる。	ことが確認できる。 は認できる。 は認できる。		

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工 種 h' □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 PC橋、鋼橋上 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ 部工工事(2/2) [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 「架設関係] □ ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。 □ ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。 □ 高力ボルトの締め付け方法が適切であることが確認できる。 □ 高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。 □ 支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切勾配がついていることが確認できる。 □ 架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。 □ 架設に用いる仮設備及び架設用機材について品質、性能が確保できる規模及び強度を有することを確認していることが確認できる。 □ 現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。 □ 現場塗装において、塗装作業の禁止条件に抵触していないことが確認できる。 □ その他 内容: 理由· 「付属物関係〕 □ 橋梁付属物(支承・伸縮装置・排水装置・検査路)の保管を適切に行っていることが確認できる。 □ 橋梁付属物(支承・伸縮装置・排水装置・検査路)の品質が適正であることが確認できる。 □ 橋梁付属物の防錆処理を適切に行っていることが確認できる。 □ 伸縮装置の据付け時の遊間量を適正に管理していることが確認できる。 □ 後打ちコンクリートの管理を適正に行っていることが確認できる。 □ アンカーの施工位置が適正であることが確認できる。 □ その他 内容: 理由· ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(51) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 b 75%以上90%未満 a b Ъ, 価 60%以上75%未満 b' b С С 60%未満 С С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用) 考查項目 T. 種 b b' d а С е □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 塗装工事 □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 □ 塗装作業にあたり、塗装面を十分に乾燥させる等適切な作業条件下で、塗装管理者の立会のもと施工していることが確認できる。 □ ケレンを入念に実施していることが確認できる。 □ 天候状況の確認、気温及び湿度等の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。 □ 塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。 □ 鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。 □ 設計図書に基づき作業管理(状況)記録を提出し、適正に作業が行われていることが確認できる。 □ 塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。 □ 溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。 □ 塗料の品質が品質規格証明書及び抜取検査証明書により設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(10) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 75%以上90%未満 a, b Ъ, 60%以上75%未満 b Ъ' С С 60%未満 С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用) 考查項目 T. 種 b Ъ' d а С □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 区面線工事 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 □ 設計図書に基づく試験施工を実施し、本施工が試験施工を行った機械、塗料、施工条件(気象条件、走行速度、路面状態など)で実施されて いることが確認できる。 □ 区画線の施工にあたって、設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。 □ 区画線を消去の場合、表示材(塗料)のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。 □ プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。 □ 区画線の材料が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 一 その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 75%以上90%未満 а, b b ' b ' 価 60%以上75%未満 ь' b С 値 60%未満 С С С

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考查項目 T. 種 h' □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 のり面処理工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、検査員が あったため、監督員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 「共通 □ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。(特にのり枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係) □ 施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。 □ 盛土の施工にあたり、のり面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 □ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。 □ 既設のり面の健全度を調査し、施工に反映していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由· [種子吹付工、植生基材吹付工関係] □ のり面調査(土壌調査、のり面構造調査など)を実施しており、その結果を施工に反映していることが確認できる。 □ ネットなどの継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。 □ ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。 □ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。 □ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: [コンクリート又はモルタル吹付工関係] □ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 金網の継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。 □ 金網が破損を生じていないことが確認できる。 □ 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。 □ 吹付けを2層以上に分けて行う場合、2層目を1時間以内に吹付けていることが確認できる。 □ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を適切に行っていることが確認できる。 □ 水抜孔の施工が適正であることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(22) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 b 75%以上90%未満 b а h h ' 価 60%以上75%未満 Ъ, b С 値 60%未満 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 h' 3. 出来形及 防護さく工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、検査員が あったため、監督員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 された ●評価対象項目 □ 防護柵の設置基準・同解説(日本道路協会)及び、車両用防護柵標準仕様・同解説(日本道路協会)、視線誘導標標準図集等の規定を満足している ことが確認できる。 □ 使用材料の規格が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 資材置場の整理整頓等、適切な材料保管が確認できる。 □ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いように施工していることが確認できる。 □ 防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定のケーブルの初期緊張を導入していることが確認できる。 □ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。 □ ベースプレート支柱のアンカーの施工が適切に行われていることが確認できる。 □ 溶融亜鉛めっきの防錆処理に損傷を与えていないこと、もし、損傷を与えた場合には適切な対応を行っていることが確認できる。 □ 継ぎ手ボルトの締め付け確認が実施されていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(11) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 75%以上90%未満 b Ъ, а 価 60%以上75%未満 b Ъ, С С 60%未満 b ' С С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h' 3. 出来形及 遮音壁工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 □ 使用材料の規格が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 資材置場の整理整頓等、適切な材料保管が確認できる。 □ 鋼管ぐいの貫入不能時の処理等が適切に行われていることが施工記録で確認できる。 □ 基礎工の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いように施工していることが確認できる。 □ 床掘りの仕上り面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 □ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。 □ 溶融亜鉛めっきの防錆処理を損傷することのない適切な施工が確認できる。 □ 透光性遮音板の設置にあたって損傷することのない適切な施工が確認できる。 □ 遮音板が隙間を生じないように支柱に固定されていることが確認できる。 □ 落下防止ワイヤーにねじれがなく、適切な余長の確保が確認できる。 □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(11) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 b 75%以上90%未満 b b 価 60%以上75%未満 b Ъ, С С 60%未満 Ъ, С С С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h' 3. 出来形及 標識工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 された ●評価対象項目 □ 設計要領第5集標識設置要領等の規定を満足していることが確認できる。 □ 使用材料の規格が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 板・シートの加工は、仕様書に定められたとおりであることが確認できる。 □ 資材置場の整理整頓等、適切な材料保管が確認できる。 □ 床掘りの仕上り面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 □ 基礎工の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いように施工していることが確認できる。 □ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。 □ 溶融亜鉛めっきの防錆処理を損傷することのない適切な施工が確認できる。 □ 継手ボルトが適切に締付けられていることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(10) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 b 75%以上90%未満 b Ъ, 価 60%以上75%未満 b Ъ, С С 60%未満 Ъ, С С С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 b' 3. 出来形及 トンネル内装 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ 板工事 [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 された ●評価対象項目 □ 設計図書に基づき内装工の材料の基準試験及び定期試験を実施しており、品質が確認できる。 □ 部材表面に傷等がないことが確認できる。 □ 資材置場の整理整頓等、適切な材料保管が確認できる。 □ 覆工面は、直張りの前に水洗いを行い、ほこり等を除去していることが確認できる。 □ 接着剤の塗り付けがクシ目ゴテにより施工していることが確認できる。 □ 目地材は、目地用モルタルを目地ごとに詰め込み、目違い及びこてむらのないように施工していることが確認できる。 □ タイルの上端及び横端部にシーリング材を三角に施工しいることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(8) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 a' h b 75%以上90%未満 a b Ъ, 60%以上75%未満 ь ' b С 60%未満 Ъ, С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

別紙-320

考査項目別運用表(しゅん功検査用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任検査員用) 考查項目 T. 種 b b' d а C е □ 品質関係の測定方法又 bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 造園工事 優れている は測定値が不適切で は測定値が不適切で び出来ばえ あったため、監督員が あったため、検査員が □ 土壌硬度調査及び土壌試験(PH)、現場透水試験を実施し施工に反映していることが確認できる。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 □ 活着が促されるように管理していることが確認できる。 □ 樹木などに損傷、鉢くずれ等がないよう保護養生を行っていることが確認できる。 □ 樹木等の生育に害のある害虫等がいないことが確認できる。 □ 根茎の状態が良好な材料を使用していることが確認できる。 □ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っており、植栽簡所に応じた樹木の向きや樹形となっていることが確認できる。 □ 肥料が直接樹木の根にふれないよう均一に施肥していることが確認できる。 □ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 □ 支柱・添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 □ 樹木名標板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 □ 芝生は雑草の混入がない材料を使用していることが確認できる。 □ 芝生、マルチング、植栽簡所などの施工箇所に不陸や滞水がないことが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が90%以上・・・・・ a 評価値が80%以上90%未満・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(13) 評価値が60%未満・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

び出来ばえ ●評価対象項目 「解休工事」 は測定値が不適切で あったため、監督員が	e □ 品質関係の測定方法又
□ 対料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 材料の品質確認記録の内容が整理され、適切であることが確認できる。 □ 品質管理方法が施工計画書等で明確に記載されており、それに基づいた管理を実施している。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 □ 本の他 □ 内容: 理由:	口 品質関係の測定方法マ
II. 品質 □ 材料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 材料の品質確認記録の内容が整理され、適切であることが確認できる。 □ 品質管理方法が施工計画書等で明確に記載されており、それに基づいた管理を実施している。 □ 施工の各段階における完了時の試験及び記録の内容が、適切であることが確認できる。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 □ 本の他 □ 内容: □ 理由:	は測定値が不適切で あったため、検査員が
対料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。	あったため、検査員が修補指示を行った。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

	該当する項目の	口にレマークを記入する。						(王仕検査員用)			
考査項目	工種	а	a'	b	b '	С	d	e			
1 11 11 11 11 12	上記以外の	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は			
び出来ばえ	施設工事	●評価対象項目	·	·	·	·	測定値が不適切であった				
			結果が、品質保証等(現物照合			, _ ,	ため、監督員が文書で指				
Ⅱ. 品質			及び性能が成績等で確認でき、			が確認できる。	示を行い改善された。	を行った。			
			る品質管理を実施していること		ごきる。						
			能が、所定の能力を満足してい								
			た詳細設計を行い、承諾図書と								
		□ 完成図書で定期的な点検									
		_ / _ / / / / / / / / / / / / / / / / /	の機能並びに性能及び操作方法	5.							
		_ /-//	品の製造年月日及び製造者がキ 夫していることが確認できる。		ことが帷恥じざる。						
			大していることが確認できる。 の取扱説明書を工夫し作成(修			トが確認できる					
		□ 甲央同設備生体について □ 配線 配管を承諾図書の	こが推動できる。								
		_ HODDING HOLD C. 17 HARDED 1	こねり敷設していることが確認 が、交換頻度の高い部品等の3		*************************************	ζ.					
			いよう工夫していることが確認 いよう工夫していることが確認		- // し く / ・'ひ こ C // YEBD く ご ?	۰ بر					
		□ 機器が配置が点模しやすりにより工犬していることが確認できる。 □ 現地状況を勘案し施工方法等について提案を行うなど、積極的に取り組んでいることが確認できる。									
		□ 現地状化を刺来し地工方法等について促来を行りなど、積極的に取り組んでいることが確認できる。 □ 平常時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。									
		□ 計器類に運転時の適用節[
			承諾図書のとおり配置され、複								
		□ 二次コンクリートの配合									
		□回転部や高温部、充電部									
		□ 溶接管理基準の品質管理	項目について規定値を満足して	ている。							
		□ 塗装管理基準の品質管理	項目について規定値を満足して	ている。							
		□ その他									
		内容:									
		理由:									
		●判断基準	<u></u>					,			
		評価値90%以上・・・		核「評価対象項目」のうち、評							
		評価値が80%以上90%	草した比率								
		評価値が70%以上80%									
		評価値が60%以上70%									
		評価値が60%未満・・	: する。								

(主任検査員用)

[=== 1 +=>+=1 ++>	W-7-7-ED-0-E	与宣復日別連州衣(しゅん勿検査用)		()
			- A	
考查項目 3. 出来形及 耐	当する項目の[工 種	正直報明念の武験議束のぼらつきと評価対象項目の腹背状次(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 国連基準、各種施工管型製積、その他設計図書に定められた試験 ※ ばらつきの判断に別紙 − 4 参照。 ● 評価対象項目 [コンクリート巻立工関係 一	d □ 品質関係の測定方法又は測定値が外でであったた場所を行いであった指示を行い改善 コカナ	(主任検査員用) e □ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であった後査員が検査員が修補指示を行った。
		【現場塗装関係】		

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h' □ 品質関係の測定方法又 3. 出来形及 耐震補強工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] び出来ばえ (2/2)あったため、監督員が あったため、検査員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ナカナ 「繊維巻立工関係】 □ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 □ 監督員の指示事項又は設計図書に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認 できる。 □ 施工計画書の内容及び現場の施工が提出された性能証明書の施工条件、施工方法、施工管理方法などを満足していることが確認できる。 □ 繊維シートを施工するにあたり、施工面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 □ 既設コンクリート表面処理を入念に実施していることが確認できる。 □ 施工時の天候、気温及び湿度等の条件を整理・記録していることが確認できる。 □ 品質形状が均一で、設計図書等との確認ができ、証明書等を整備していることが確認できる。 □ 試験結果がよく、所定の能力を満足していることが確認できる。 □ 自社の品質向上に向けた取り組みがみられることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: [構造物掘削工関係] □ 構造物周辺の締め固め等の処理(狭小部の施工)を適正に行っていることが確認できる。 □ 構造物掘削床付け面の排水(釜場設置等)を適切に実施していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(45) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 50%以下 80%以下 80%を超える 判断不可能 90%以上 b 75%以上90%未満 b Ъ, а 価 60%以上75%未満 Ъ' b С 60%未満 Ъ, 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 h' 3. 出来形及 はく落対策工事 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の測定方法又 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 は測定値が不適切で は測定値が不適切で [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] び出来ばえ あったため、検査員が あったため、監督員が ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 文書で指示を行い改善 修補指示を行った。 Ⅱ. 品質 ●評価対象項目 □ 繊維シートを施工するにあたり、施工面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 □ ブラスト・W I を入念に実施していることが確認できる。 □ 施工時の天候、気温及び湿度等の条件を整理・記録していることが確認できる。 □ 塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。 □ 塗膜に有害な付着物がないことが確認できる。 □ 品質形状が均一で、設計図書等との確認ができ、証明書等を整備していることが確認できる。 □ 機能について、設計図書等との適正が確認でき、その証明書等を整備していることが確認できる。 □ 全体として性能(現地試験結果)がよく、所定の能力を満足していることが確認できる。 □ 完成図書において、機能(性能)が容易に判別できる資料等を整備していることが確認できる。 □ 自社の品質向上に向けた取り組みがみられることが確認できる。 □ はつり処理では鋼材に損傷を与えないとともに断面修復に支障とならない平坦性を確保していることが確認できる。 □ 断面補修においては既設コンクリートと一体化し、所定の機能を有していることが確認できる。 一 その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(13) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える 90%以上 a а' b b 75%以上90%未満 a b b 60%以上75%未満 b Ъ' С С 60%未満 Ъ, С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h А 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 び出来ばえ 土木工事 ●評価対象項目 [コンクリート構造物、トンネル工、海岸工] 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 80%以上 Ⅲ. 出来ばえ □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 а □ コンクリート構造物の通りが良い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ 天端、端部及び打継ぎ目の仕上げが良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(32) 40%以上60%未満 С 値 40%未満 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 \square クラックがない。 □ 漏水がない。 □ 全体的な美観が良い。 [切盛十工] □ 仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 規定された勾配が確保されている。 □ のり面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されている。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 用排水工等に細心の注意が払われ、きめ細かな施工がされている。 □ 構造物へのすりつけなどが良い。 □ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。 □ 全体的な美観が良い。 [のり面工] □ 通りが良い。 □ 植生、吹付等の状態が均一である。 □ 端部処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 [基礎工及び地盤改良工] □ 土工関係の仕上げが良い。 □ 通りが良い。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ※ 地盤改良工はc評価とする。 [地すべり対策工] □ 地山との取合いが良い。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 □ 全体的な美観が良い。 [護岸・根固・水制工] □ 通りが良い。 □ 材料のかみ合わせがよく、クラックがない。 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 □ 既設構造物とのすりつけが良い。 □ 全体的な美観が良い。 舗装工事 ●評価対象項目 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 [共通] □ 舗装の平坦性が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 評 □ 構造物の通りが良い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 40%以上60%未満 □ 端部処理が良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(10) С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 構造物へのすりつけ等が良い。 □ 雨水処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 「アスファルト舗装] □ ローラーマークがなく平坦性が良い。 □ 高機能舗装の空隙がつぶれてなく均一な路面になっている。 [コンクリート舗装] □ 天端、端部及び打継ぎ目の仕上げが良い。 □ コンクリート構造物が瀝青材等によって汚れていない。

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 優れている び出来ばえ PC橋上部工 ●評価対象項目 工事 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断其淮 80%以上 Ⅲ. 出来ばえ □ コンクリート構造物の通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 а 評 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ 支承部の仕上げが良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(9) 40%以上60%未満 С ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 \square クラックがない。 40%未満 □ 漏水がない。 □ 床版面の平坦性が良い。 □ PC鋼材緊張後の後処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 鋼橋工事 ●評価対象項目 □ 表面に補修簡所が無い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 部材表面に傷及び錆が無い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 60%以上80%未満 □ 溶接に均一性がある。 (%)計算の値で評価する。 h 価 □ 塗装に均一性がある。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 床版面の平坦性が良い。 d □ 全体的な美観が良い。 塗装工事 ●評価対象項目 (工場塗装を除く) □ 塗装の均一性が良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 評 □ 補修簡所が無い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 h 価 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 □ ケレンの施工状況が良好である。 С □ 全体的な美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 А 区面線工事 ●評価対象項目 □ 塗料の塗布が均一である。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 □ 視認性が良い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 □ 接着状態が良い。 b 価 □ 施工前の清掃が入念に実施されている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 C ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 全体的な美観が良い。 d のり面処理工事 ●評価対象項目 □ 植生、吹付等が均一で仕上がりが良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ のり肩・のり尻と地山等とのすりつけ等、端部処理や通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 評 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工目地等の仕上がりが良い。 h 価 40%以上60%未満 □ 排水処理が適正に施工されている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) С 値 40%未満 □ 全体的な美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 Ы 防護さく工事 ●評価対象項目 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 □ 端部処理が良い。 80%以上 а 60%以上80%未満 □ 部材表面に傷、錆が無い。 (%)計算の値で評価する。 b □ 既設構造物等とのすりつけが良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) 40%以上60%未満 C □ きめ細やかに施工されている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 А □ 全体的な美観が良い。 遮音壁工事 ●評価対象項目 □ 通りが良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 端部処理が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 60%以上80%未満 □ 部材表面に傷、錆が無い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) 40%以上60%未満 □ 既設構造物等とのすりつけが良い。 С □ 十工処理及び植栽との取り合い等きめ細やかな施工がなされている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 全体的な美観が良い。

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 b 3. 出来形及 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている び出来ばえ 標識工事 ●評価対象項目 □ 設置位置に配慮がある。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 Ⅲ. 出来ばえ ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 □ 標識の向き並びに角度及び支柱の通りが良い。 a 評 □ 標識板及び支柱に変色がない。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ 支柱基礎が入念に埋め戻されている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 全体的な美観が良い。 トンネル内装板 ●評価対象項目 工事 □ 通りが良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 □ 端部処理が良い。 評 60%以上80%未満 □ 部材表面に傷、錆が無い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 □ きめ細やかな施工がなされている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 全体的な美観が良い。 d **治園工事** ●評価対象項目 ●判断基準 □ 樹木の活着状況が良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 80%以上 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 □ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 評 60%以上80%未満 □ 支柱の取り付けが堅固である。 (%)計算の値で評価する。 価 □ 植物材料の特性を理解し、各所の納め方や建築物等とのバランスが良い ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 寄植え、生垣、列植の高さ調整が出来ている。 d □ 園路舗装は平坦に保たれ、付属物等との高さ調整が出来ている。 □ 全体的な美観が良い。

□ 全体的な美観が良い。

考査項目別運用表(しゅん功検査用)

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考査項目 T. 種 h 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 び出来ばえ 建築工事 ●評価対象項目 □ きめ細かな施工がなされ取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 Ⅲ. 出来ばえ 80%以上 □ 関連工事(工種)または既存部分との調整がなされ調和が良い仕上げ ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 а 評 である。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮がされている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(18) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 □ 仕上がりの状態が良好で傷、錆、汚れ、色むら等がない。 40%未満 □ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工継目及び端部の仕上げが良い。 □ コンクリート構造物にクラック、漏水がない。 □ コンクリート打設前の配筋・型枠は整然と組立てられている。 □ アンカーボルト等が適切かつバランスよく施工されている。 □ 躯体鉄骨は精度よく組み立てられている。 □ 錆止め塗装は塗膜の損傷がなく、仕上げよく施工されている。 □ 仕上げ材は凹凸がなく、入隅・出隅部とも精度良く施工されている。 □ 開口部はがたつき・ばたつきがなく、円滑に開閉できている。 □ 段差処理は仕上げよく施工されている。 □ 付帯設備は堅牢かつ確実に取り付けられている。 □ 配管・配線は種別毎に適切かつ整然と施工されている。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能性が良い。 □ 近傍の設備などと干渉がない。 上記以外の ●評価対象項目 施設工事 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ きめ細やかな施工がなされている。 □ 諸設備の据付けに傾斜がなく通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 評 60%以上80%未満 □ 諸設備が堅牢かつ確実に据付けられている。 (%)計算の値で評価する。 h 価 40%以上60%未満 □ ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(22) С 値 □ 部材表面に傷、錆、汚れがない。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 Ы □ 関連工事(工種)または既存部分との調整がなされ調和が良い仕上げである。 □ 公共物として、安全の確保、環境及び維持管理への配慮がなされている。 □ 溶融亜鉛メッキ処理の全体的な美観が良い。 □ 溶融亜鉛メッキ処理により材料に歪が無い又は少ない。 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工継目及び端部の仕上げが良い。 □ コンクリート基礎と埋め戻し土のすりつけ、取り合いが適切に施工されている。 □ 配管・配線は種別毎に適切かつ整然と施工されている。 □ アンカーボルト等が適切かつバランスよく施工されている。 □ 機器承諾図・施工図等に従い整然と製作・施工されている。または、整然と施工されることが施工計画書・機器承諾図・施工図等で確認できる。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能性が良い。 □ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □ 近傍の設備などと干渉がない。 □ (バックアップがある場合)障害時に所定の時間内に切り替わる。 □ 運転時の騒音が規定範囲内に収まっている。 □ 異なるメーカーの機器間でも通信が成立する。 □ 当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。

「記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考査項目 工種 h 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 耐震補強工事 ●評価対象項目 び出来ばえ [コンクリート 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 巻立工] □ コンクリート構造物の通りが良い。 а 評 Ⅲ. 出来ばえ □ 施工継目及び端部の仕上げが良い。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ コンクリート構造物にクラックがない。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) 40%以上60%未満 С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 □ コンクリート構造物に漏水がない。 40%未満 □ 細部に渡り細心の注意が払われ、きめ細やかな施工がされている。 □ 全体的な美観が良い。 耐震補強工事 ●評価対象項目 ●判断其淮 [鋼板巻立工] □ 部材表面に傷及び錆が無い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 □ 溶接に均一性がある。 評 □ 塗装に均一性がある。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 b 価 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 40%以上60%未満 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) С 値 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 補修簡所が無い。 d □ 表面処理の施工状況が良好である。 □ 全体の美観が良い。 耐震補強工事 ●評価対象項目 [繊維巻立工] □ 塗装に均一性がある。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 80%以上 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 а 60%以上80%未満 □ 補修簡所が無い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 □ 表面処理の施工状況が良好である。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 C ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 全体の美観が良い。 d はく落対策工事 ●評価対象項目 ●判断基準 □ 塗装に均一性がある。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 評 60%以上80%未満 (%)計算の値で評価する。 □ 補修箇所が無い。 b 価 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 □ 表面処理の施工状況が良好である。 値 □ 全体の美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目 細	別 a	b	С	d	е
. 施工状況 I. 施工 ²	理 優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
	□施工計画書が工事着手前に提出ものとなっていることが確認で施工計画書の記載内容と現場場で見場をきる。 □工事材料の品質に影響が無い。 □検査及び立会いの手続きを事事では、一様査及び立会いの手続きを事事では、一様査及び立会いの手続きを事事では、一様査及びを表別をである。 □な設業退職金共済制度の主旨を出来形、品質等の確認体制が経し、工事の関係書類を定められた其の世界機械、車両等の点検整備を関係を開いて、誘導員に、一個といって、組立等の、一定場や支保工について、組立等のである。 □ 足場や支保工について、組立等のである。 □ 足場や支保工について、組立等のである。 □ 足場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等のである。 □ 上場や支保工について、組立等回じている。 □ 上場や支保工について、組立等回じている。 □ 上場を加速を表している。 □ 中間には、	正方法が一致していることが確認できる。 第生じた場合は、その都度当該工事着手前に変況。 「これ事材料を保管していることが確認できる。」 「これのることが確認できる。」 「出みを適正に行っていることが確認できる。」 「出来の電流に整備していることが確認できる。」 「企業員に説明し、証紙の配布を受け払い簿等に対した。 「日本満足していることが確認できる。 「おなされ、世界となく簡潔に整理していることが確認できる。 「おなされ、管理されている。 「と本」機と人の行動範囲の分離措置がなされている。 「となる検及び管理が適切に実施されている。 「とで重機と人の点検及び管理が適切に実施されている。 「とで重性を関する。」 「当該「評価対象項目」のうち、評しまり、は、「記録」である場合は削除後の評している。 「会」の計算の値で評価する。	設計図書の内容及び現場条件を反映した更施工計画書を提出していることが確認でとが確認できる。こより適切に管理している。とか確認できる。とが確認できる。とが確認できる。とか確認できる。	□施工管理について、監督員が文書による改善指示を行った。	□施工管理について、監督員からの言書による改善指示に従わなかった。

考查項目別運用表 (品質管理中間檢查用)

「記入方法」該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考查項目 □ 出来形の測定が、必要な □ 出来形の測定が、必要な 3. 出来形及 □ 出来形の測定が、必要な □ 出来形の測定が、必要な □ 出来形の測定が、必要な □ 出来形の測定方法又は測 □ 出来形の測定方法又は測 測定項目について所定の 測定項目について所定の 測定項目について所定の 測定項目について所定の 測定項目について所定の 定値が不適切であったた 定値が不適切であったた び出来ばえ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ 測定基準に基づき行われ め、監督員が文書で指示 め、検査員が修補指示を ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 ており、測定値が規格値 ており、規格値を満足 を行い改善された。 行った。 I. 出来形 を満足し、そのばらつき を満足し、そのげらつき し、a~b'に該当しな を満足し、そのばらつき を満足し、そのばらつき が規格値の概ね50%以 が規格値の概ね50%以 が規格値の概ね80%以 が規格値の概ね80%以 内で、下記の「評価対象 内で、下記の「評価対象 内で、下記の「評価対象 内で、下記の「評価対象 項目」の3項目以上が該 項目」の2項目以上が該 項目 | の4項目以上が該 項目 | の3項目以上が該 当する。 当する。 当する。 当する。 ●評価対象項目 □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 口その他 内容: 理由: 出来形は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「施工管理要領」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 **造園工事** а bより優れている cより優れている 他の評価に該当しない 優れている やや優れている やや劣っている 劣っている □ 出来形の測定方法又は測 □ 出来形の測定方法又は測 ※上記欄によ ●評価対象項目 定値が不適切であったた らず、当該欄 定値が不適切であったた □ 出来形測定結果又は試験結果等が適切にまとめられていることが確認できる。 め、検査員が修補指示を め、監督員が文書で指示 で評価 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で確認できる。 を行い改善された。 行った。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 工事記録写真等撮影要領の管理項目を満足し、適切に管理していることが確認できる。 □ 支柱工や舗装工等の出来形又は製品の規格値を満足していることが確認できる。 □ 樹木材料の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足していることが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(7) 評価値が60%未満・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

考查項目別運用表 (品質管理中間檢查用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

(主任檢查員用) 考查項目 T. 種 А 3. 出来形及 建築工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない やや劣っている 劣っている □ 出来形の測定方法又は測 □ 出来形の測定方法又は測 び出来ばえ ●評価対象項目 定値が不適切であったた 定値が不適切であったた ※上記欄に上 □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 め、監督員が文書で指示 め、検査員が修補指示を らず、当該欄 1. 出来形 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 を行い改善された。 行った。 で評価 □ 鉄骨の建方精度について、管理基準値内に納まっていることが建入検査記録結果により確認できる。 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □ 附帯設備の据付及び固定方法を、設計図書又は承諾書通りに施工していることが確認できる。 □ 附帯設備の配管及び配線を、設計図書又は承諾書通りに敷設していることが確認できる。 □ 上記以外の出来形又は製品の形状、寸法が設計値(設計図書)を満足し、出来形の確認ができる。 □ 上記以外の出来形又は製品の機能が設計値(設計図書)を満足し、出来形の確認ができる。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・ a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(9) 評価値が60%未満・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 上記以外の А а а h е 施設工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない やや劣っている 劣っている □ 出来形の測定方法又は測 □ 出来形の測定方法又は測 ●評価対象項目 定値が不適切であったた 定値が不適切であったた ※上記欄によ □ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図表を工夫していることが確認できる。 め、監督員が文書で指示 め、検査員が修補指示を らず、当該欄 □ 機器等の測定(試験)結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。 を行い改善された。 行った。 で評価 □ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □ 不可視部分の出来形が写真又は立会検査結果で的確に判断できる。 □ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であり、出来形の確認ができる。 □ 設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾書通りに施工していることが確認できる。 □ 配管及び配線が、設計図書又は承諾書通りに敷設していることが確認できる。 □ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けていることが確認できる。 □ 用途や流れの方向を表示した名札が、電線管を除く配管の必要部分に分かり易く堅固に取り付けていることが確認できる。 □ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 □ 途装管理基準の途膜厚管理を適切にまとめており、出来形の確認ができる。 □ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめており、出来形の確認ができる。 □ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録していることが確認できる。 □ 機器承諾時における製品の検査結果が設計値(設計図書)を満足していることが確認できる。 □ 機器完成時における製品の検査結果が設計値(設計図書)を満足していることが確認できる。 一 その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・ a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(17) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 評価値が60%未満・・・・・・ c

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考查項目	工種	a	a '	b	b '	С	d	e
3. 出来形	土木工事(1/5)	□ 品質関係の試験結果のば	らつきと評価対象項目の履行状	況(評価値)から判断する。<キ	判断基準参照>			□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理	要領、その他設計図書に定め	られた試験]			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別約	紙-4参照。				ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
							小を刊い改善された。	&11-57Co
Ⅱ.品質		●評価対象項目						
		[コンクリート構造物]				_		
					リ骨材反応抑制等)が確認できる	వ.		
			こ必要な試験を実施しており、					
			たコンクリート供試体が、当該			The store do y		
				さ及び締固め万法か、定めら	れた条件を満足していることが	(催認できる。		
		(寒中及び暑中コンクリー		※1ヶ利4.サイドナロエの時り月	1 た年 マハフェルが強靭でも	7		
					・しを行っていることが確認でき	٥.		
			, 打継ぎ目処理を適切に行って	いることが傩秘できる。				
		□ 鉄筋の規格がミルシート	で確認できる。 さび、どろ、油等の有害物が鉄	校に仕美しわいとる無理して	コンステルが確認できる			
					いることが帷秘できる。 ·満足していることが確認できる			
					- 何足していることが確認できる - 類を提出していることが確認で			
			エ伝、機械極子寺)を過めた施 設計図書の仕様を満足している		娘を近日していることが推診し	<i>ా</i>		
			改計図書の仕様を満足し 数が、設計図書の仕様を満足し					
		□ 型枠を適切に保管している		ていることが推動しるる。				
			」 損傷、隙間、段差等はないが) していることが確認できる				
	□ ジャンカ・砂すじ等が少なく、かつ適正に補修がなされ、セパレータの後処理も適切に行っていることが確認できる。 □ コンクリート関係の書類を適切な時期に提出していることが確認できる。							
			(管理図・試験頻度等)を適切		きろ			
			していることが確認できる。(
			則等を適切に行っていることが					
		□その他	MARCHEST COLUMN	HEND CC 00				
		内容:						
		理由:						
		[切盛土工]						
		□ 雨水による崩落が起こら	ないように、排水対策を実施し	ていることが確認できる。				
			行っていることが確認できる。					
		□ 置換えのための掘削を行	うにあたり、掘削面以下を乱さ	ないように施工していること	が確認できる。			
		□ 締固めが設計図書に定め	られた条件を満足していること	が確認できる。				
		□ 一層あたりのまき出し厚る	を管理していることが確認でき	る。				
		□ 構造物周辺の締固めを設ま	計図書に定められた条件で行っ	ていることが確認できる。((偏土圧、狭小部の施工)			
		□ 設計図書に基づき R I 計器	器(透過型RI水分密度計器)	の性能確認試験を受けている	ことが確認できる。			
		□ 路床は、プルーフローリン	ング及びたわみ測定試験を適正	に実施していることが確認で	[*] きる。			
		□ 削り取った土砂(表土) る	を有用表土として使用する場合	、不適当材料や有害な物質を	含まないよう施工が適正に行っ	ていることが確認できる。		
		□ CBR試験などの品質管理	埋に必要な試験を行っているこ	とが確認できる。				
		□ のり面に有害な亀裂が無い	· ·					
		_ / / 0 / / / / / / / / / / / / / / / /	時期に施工していることが確認					
		□ 用・排水構造物の底部が泡	骨らかで一様な勾配が保たれ、	埋め戻し部も周辺地盤と同等	以上の支持力があり、雨水によ	る侵食がないことが確認で		
		きる。						
			ラウンディング処理を適正に実					
			て、動態観測結果を的確に施工		`きる。			
			水(釜場設置等)を適切に実施	していることが確認できる。				
			取っていることが確認できる。					
			らみ、傾斜等がないことが確認					
	□ 材料変化に対応した基準試験を実施していることが確認できる。							
			しており、材料変化に注視して					
			しており、盛土高さの管理をし	しいることか確認できる。				
		□その他						
		内容:		_				
		理由:						

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

ener in the	阪コラ からはかに	(CV) 2 (C) (3)			(工厂恢且與/11/
考査項目	工種	a a' b b'	С	d	е
3. 出来形	土木工事(2/5)	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験]		測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指	測定値が不適切であった ため、検査員が修補指示
ばえ		※ ばらつきの判断は別紙-4参照。		示を行い改善された。	を行った。
				. The state of the	2,10 - 1-10
Ⅱ.品質		●評価対象項目			
		[のり面工]			
		【共通】			
		□ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。(特にのり枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係))		
		□ 施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。			
		□ 盛土の施工にあたり、のり面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 □ 悪力によるとはまだなことかいように、 ## 4 ## ## ## ## ## ### ### ### #######			
		□ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。 □ 7.0%			
		□ その他			
		「個外的工、個生産材外的工製術」 □ のり面調査 (土壌調査、のり面構造調査など) を実施しており、その結果を施工に反映していることが確認	刃できる		
		□ かり面両重(工場両重、のり面挿垣両重など)を実施しており、その相来を施工に反映していることが確認 □ ネットなどの継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。	8 C C O O		
		□ ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。			
		□ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。			
		□ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。			
		□ 施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		【コンクリート又はモルタル吹付工関係】			
		□ 使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。			
		□ 金網の継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。			
		□ 金網が破損を生じていないことが確認できる。			
		□ 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。			
		□ 吹付けを2層以上に分けて行う場合、2層目を1時間以内に吹付けていることが確認できる。			
		□ 吹付コンクリート又はモルタルの日常管理が適切に行われている。			
		□ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。			
		□ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を適切に行っていることが確認できる。			
		□ 水抜孔の施工が適正であることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		【現場打ち枠工及び吹付のり枠工(コンクリート枠工含む)関係】			
		□ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。			
		□ 現場養生が、設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。			
		□ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。			
		□ 枠の鉄筋の下に空洞がないことが確認できる。			
		□ 打継ぎ目は横梁の中央に設けており、継目処理を適切に行っていることが確認できる。			
		□ 不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を適切に行っていることが確認できる。			
		□その他			
		<u>内容:</u>			
		理由:			
		【切土補強土工関係】			
		□ 使用する材料の種類、品質等及び施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	1. 20° 74-27 ver de 7		
		□ 急勾配掘削の場合、動態観測を設計図書に基づき実施しており、観測結果を的確に施工に反映していること □ スの体	こが帷祕できる。		
		□ その他			
		<u>内容:</u> 			

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考查項目	工種	a	a'	b	b '	С	d	e
3. 出来形 及び出来 ばえ	土木工事(3/5)		らつきと評価対象項目の履行# 担要領、その他設計図書に定め 紙-4参照。		断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	測定値が不適切であった
Ⅱ.品質		□ 水平度、鉛直度等が、設ま□ 杭の現場溶接継手の施工	-,,,,,,	ことが確認できる。 図書の仕様を満足していること			, en , al en , e	
		□ 場所打杭について、トレ: □ 掘削深度、排出土砂、孔F□ 鉄筋かごの保管を適切に行 □ 鉄筋かごの建込み管理を適切に行 □ 配筋、スペーサーの配置 Дロンクリートの余盛や杭野田 ライナープレートの組みる 水平度、鉛直度等が、設計	とが、既存の土質データとの比 ミー管をコンクリート内に2m 内水位の変動及び安定液を用い 行っていることが確認できる。 適切に行っいることが確認等がき 適切についることが確認等がき 近びコンクリートの打設等がき 頭の処理が適切で、杭本体を掲 立てにあたり、脱落、変形、以 計図書の仕様を満足していること 録が適切に整備されていること	1以上挿入して施工しているこれの場合の孔内の安定液濃度、 さる。 設計図書の仕様を満足してい 損傷していないことが確認でき かるみがなく適切に設置されて ことが確認できる。	とが確認できる。 比重等が設計図書を満足していることが確認できる。 る。	いることが確認できる。		
		【ケーソン関係】 □ 刃口の据付が適切である。 □ 支持地盤に達しているこ。 □ 配筋、スペーサーの配置。 □ 水平度、鉛直度等が、設計図書に基づき施工記録 □ その他 内容:	ことが確認できる。 とが、既存の土質データとの比 及びコンクリートの打設等が、 計図書の仕様を満足していること 録が適切に整備されていること	設計図書の仕様を満足してい とが確認できる。				
		理由: 【地盤改良工事】 □ 改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。 □ 事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。 □ 施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。 □ その他 □ 内容: □ 理由: [地すべり対策工(抑止杭・集水井戸工事を含む)]						
		□ 地山との取り合わせを適り□ ライナープレートの組みび□ ライナープレートと地山。	図書の仕様を満足していること 切に行っていることが確認でき 立てにあたり、偏心と歪みに重 との隙間が少なくなるように施 方向及び角度が、適正となるよ	くる。 己慮して施工していることが確 正工していることが確認できる	0			

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

	N I / D X I V L							(工厂)及且外间/
考査項目	工種	а	a'	b	b '	С	d	e
3. 出来形	土木工事(4/5)			犬況(評価値)から判断する。	判断基準参照〉		□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった
及び出来			要領、その他設計図書に定め	られた試験」			ため、監督員が文書で指	
ばえ		※ ばらつきの判断は別約	示を行い改善された。	を行った。				
Ⅱ. 品質		●評価対象項目	4					
11. 四頁		●評価対象項目 「トンネルエ]						
		□ 坑内の仮排水処理を適切し						
		□ ロックボルトの種別、規			Filth 31)			
		□ 設計図書に定められた岩図						
		□ 坑内観察調査などについっ		i l				
		□ 設計図書に基づき計測管理						
		□ 金網の継目を1目以上重ね						
		□ 吹付けコンクリートの施口						
		ことが確認できる。						
		□吹付けコンクリート施工品						
		□ 吹付けコンクリートを打約□ 吹付け面を平滑に仕上げる						
		□ 吹付り囲を半肩に仕上り						
			11111 C AC 211 - NO - 1	3 PMPS 4 C W 0	ルンファイス アレートが正しくも	マットされていることが確認		
		できる。						
			ックボルト等突起物にモルタル	レや保護マットなど保護材で防	i護対策を行っていることが確認	Rできる。		
		□ 防水シート接合部の溶着管	-					
		□ 覆エコンクリートの配筋を	を適切に施工していることが値	雀認できる。				
		□ 覆エコンクリートの打継目	目の処理は、切欠き構造となっ	っていることが確認できる。				
		□ 鋼アーチ支保工のフランミ						
					を実施して決定していることが	び確認できる。		
				O間に空隙がないことが確認で	·きる。			
		□ インパート埋戻しを適切け		mmu - C 0-0				
		□ 排水工は湧水状況を確認し □ 中央排水工及び横断排水						
		□ 中央排水工及び傾断排水。 □ その他	Lのモアル旭工を夫旭している	こことが帷祕できる。				
		内容:						
		理由:						
		ZEM .						

考查項目別運用表 (品質管理中間檢查用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考查項目 工 種 С 3. 出来形及 十木工事(5/5) □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。〈判断基準参照〉 □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった 測定値が不適切であった び出来ばえ [関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験] ため、監督員が文書で指 ため、検査員が修補指示 ※ ばらつきの判断は別紙-4参照。 示を行い改善された。 を行った。 Ⅱ.品質 ●評価対象項目 「護岸・根固・水制工】 □ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 □ 裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。 □ 緑化ブロック、石積(張)、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しが無いように行っていることが確認 □ 石積(張)工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。 □ 遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 指定材料の品質が、証明書類で確認できる。 □ 基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。 □ コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。 □ 施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滯水等は、排除して施工していることが確認できる。 □ 埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 有害なクラックが無い。 □ その他 内容: 理由: [海岸工] □ コンクリートブロックの転置及び仮置にあたって、強度確認を行っている。 □ 転倒や崩壊等が無いようにコンクリートブロックの仮置を行っていることが確認できる。 □ 捨石基礎の敷均し面を平坦に仕上げていることが確認できる。 □ 丁事期間中、1日1回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。 □ 台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。 一 その他 内容: 理由: 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 (%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(152) ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える 90%以上 a b 75%以上90%未満 b' b ' 価 60%以上75%未満 b ' С С 60%未満 h С С С 注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

(主任檢查員用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

し記八万伝」		コにレマークを記入する。			(土仕快宜貝用)
考査項目			С	d	е
3. 出来形	舗装工事(1/2)	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験]		測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別紙-4参照。		ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
				小を打い以告された。	を11つた。
Ⅱ.品質		●評価対象項目			
		[路盤工関係]			
		□ 設計図書に基づく混合物の配合設計及び試験練りが行われており、適切な混合物の規格が確認できる。			
		□ 現場に適合した試験施工を行い、本施工に反映していることが確認できる。			
		□ 材料運搬時の乾燥対策を行い、所定時間内に転圧が完了していることが確認できる。			
		□ 転圧回数や管理目標の明示等、適切な転圧の管理を行っていることが確認できる。			
		□ 設計図書に基づき、路盤準備工の材料試験、路盤準備工及びプルーフローリングを行っていることが確認できる。			
		□ 設計図書に基づき路盤の本施工時に日常管理試験を実施しており、路盤の品質(締固め度、たわみ)が確認できる。			
		□ 路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工し、混合物の含水比、セメント量等が整理、記録されていることが確認できる。			
		□ 路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。			
		□ 路盤工において、端部、狭小部の締固めを十分に行っていることが確認できる。			
		□ 路盤完了後、遅滞なく瀝青材を散布していることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		[アスファルト舗装工関係]			
		□ プラントにおける材料保管状況が良好であることが確認できる。			
		□ 設計図書に基づき施工前に材料試験、配合試験及び試験練りを実施していることが確認できる。			
		□ 舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。			
		□ プラント出荷時・現場到着時・舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。			
		□ 舗設後の交通開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。			
		□ 各層の継目の位置を、設計図書に定められた数値以上ずらしていることが確認できる。			
		□ 継目又は構造物との接触面をよく清掃したのちにタックコートを行っていることが確認できる。			
		□ アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。			
		□ 重機等に不備がなく、清掃されていることが確認できる。			
		□ 瀝青材散布量が監督員の指示どおりで、整理、記録されていることが確認できる。			
		□ 締固め度が設計図書の仕様を満足し、整理・記録されていることが確認できる。			
		□ 路面切削を適切に行っていることが確認できる。			
		□ 既設路面とのすりつけが平坦であることが確認できる。			
		□ 集水ます及び伸縮装置の養生を適切に実施していることが確認できる。			
		□ 既設・施工後路面の養生を実施していることが確認できる。 (Uターン場所を含む)			
		□ 瀝青材の散布ムラが無く、端部まで散布を行っていることが確認できる。			
		□ ダンプ及び転圧機械等の付着防止対策を適切に行っていることが確認できる。			
		□ アスファルトプラント管理週報及び舗装管理週報が適切に提出され、日常管理が実施されていることが確認できる。			
		□ 舗装廃材が設計図書に基づき適切に処理されてることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		[床版防水工関係]			
		□ 施工面の清掃を行っていることが確認できる。			
		□ 施工後の養生を行っていることが確認できる。			
		□ シート系防水材の重ね合わせが確実に行われていることが確認できる。			
		□ 塗布系防水材の温度及び使用量の管理が確実に行われていることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工 種	а	a'	b	b '	С	d	е
3. 出来形	舗装工事(2/2)	□ 品質関係の試験結果のば	らつきと評価対象項目の履行場	(沢(評価値)から判断する。	判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		「関連基準、各種施工管理	要領、その他設計図書に定め	られた試験〕			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別総	紙一4参照。				ため、監督員が文書で指	
1372		100 5 - 2 - 5 1447 100 3 10	1 9 7110				示を行い改善された。	を行った。
Ⅱ.品質		●評価対象項目						1
11.11154		「コンクリート舗装工関係」						l
			* · w / o · 是士骨材粉终 梅	化物総景 単位水景 アルカ	リ骨材反応抑制等) が確認できる	Z.		1
			に必要な試験を実施しており、			J.		l
			に必安な民族を美心しており、 たコンクリート供試体が、当割			l		
				ブレッファ しぶか知ったもつ		1		
			した運搬時間、打設時の投入高	(いることが催恥できる。		1		
		(寒中及び暑中コンクリー				1		
			を適切な時期に提出しているこ			1		
			試験が適切に実施され、日常管	P理が実施されていることが確	匪認できる。			1
		□ 鉄筋の規格がミルシートで						1
		□ 鉄筋の引張強度・曲げ強度						1
		□ 鉄筋の組立及び加工が、記	設計図書の仕様を満足している	らことが確認できる。(かぶり	、ピッチ、溶接していないか等)			1
		□ 鉄筋の継手が適切に施工される	されていることが確認できる。	(重ね継手のラップ長等)				1
		□ 材料が分離しないように=	コンクリートを敷き均している	ことが確認できる。				1
		□ チェアー及びタイバーを打	損傷などが発生しないように係	R管していることが確認できる	, ,			1
		□ 施工継ぎ目の処理を適切に	に行っていることが確認できる	, ,				1
		□ 打設前に路盤及び鉄筋の滑	清掃を確実に行っていることか	が確認できる。				1
		□ その他						1
		内容:						1
		理由:						1
								1
		① 当該「評価対象項目」	」のうち、評価対象外の項目は	は削除する。				1
			は削除後の評価項目数を母数と					1
		(%)計算の値で評価で						1
			, 。。 該当項目数(0)/評価対象	項日数(51)				1
			対象項目数が2項目以下の場合					1
		(学) なわ、円所及の計画人	**「家会自教かる会自然」の場合	TACHTIME 9 Do				1
		●判断基準						1
		●刊別を平	ばらつきで判断	可能 ばらつきで				1
				80%を超える 判断不可能				1
		0.00/1911						1
		90%以上	a a′	b b				1
		価 75%以上90%未		b' b'				1
		値 60%以上75%未		СС				1
		60%未満	b' c	сс				1
		注 試験結果の打点数等が	が少なくばらつきの判断ができ	ない場合は評価対象項目(評	¥価値) だけで評価する。			1
ı	l	1						

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

し印し入りがる	図コナ かきロット	コにレ 、 / と記/() の。						(工厂快业员/11/
考査項目	工種	а	a'	b	b '	С	d	e
3. 出来形	PC橋、鋼橋上	□ 品質関係の試験結果のば	らつきと評価対象項目の履行ង	代況(評価値)から判断する。<	(判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	
及び出来	部工工事(1/2)	[関連基準、各種施工管理	聖領、その他設計図書に定め	られた試験]			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別約	紙-4参照。				ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
							かを打い、以告された。	&119/c ₀
Ⅱ.品質		●評価対象項目						
		[コンクリート工関係]						
		□ コンクリートの品質(強度	E、w/c、最大骨材粒径、塩	化物総量、単位水量、アルカ	リ骨材反応抑制等) が確認でき	る。		
		□ コンクリート受け入れ時	に必要な試験を実施しており、	温度・スランプ・空気量等の	の測定結果が確認できる。			
		□ 圧縮強度試験等に使用した	たコンクリート供試体が当該野	見場の供試体であることが確認	認できる。			
		□ 施工条件や気象条件に適り	した運搬時間、打設時の投入高	さ及び締固め方法が、定めら	れた条件を満足していることが	確認できる。		
		(寒中及び暑中コンクリー	ート等を含む)					
		□ コンクリートの圧縮強度る	を管理し、必要な強度に達した	と後に型枠及び支保工の取り	外しを行っていることが確認でき	きる。		
		□ コンクリート関係の書類を	を適切な時期に提出しているこ	ことが確認できる。				
		□ コンクリートの日常管理	(管理図・試験頻度等) を適切	Dに実施していることが確認 ⁻	できる。			
		□ 非破壊検査を適切に実施し	していることが確認できる。	(基準試験・日常管理試験)				
		□ 鉄筋の規格がミルシート ⁻	で確認できる。					
		□ 鉄筋の引張強度・曲げ強原	度及び必要により曲げ戻し試験	食の試験値が、設計図書の仕村	策を満足していることが確認でき	きる。		
		□ コンクリート打設までにる	さび、どろ、油等の有害物が鉤	扶筋に付着しないよう管理し	ていることが確認できる。			
		□ 圧接作業が適正であるこ	とが確認できる。					
		□ スペーサーの品質及び個数	数が、設計図書の仕様を満足し	ていることが確認できる。				
		□ ジャンカ・砂すじ等が少れ	なく、かつ適正に補修がなされ	い、セパレータの後処理も適気	刃に行っていることが確認できる	5.		
		□ クラックがある場合、計	測等を適切に行っていることな	5確認できる。				
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		[PC工関係]						
		□ プレビーム桁のプレフレ?	クション管理が、設計図書の付	t様を満足していることが確i	忍できる。			
			機器のキャリブレーションを買					
			ウト注入管理値が、設計図書の					
		□ プレストレス導入時のコン						
		□ プレストレス導入時のコン						
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		[工場製作関係]						
			明する書類又は現物により照合	うしていることが確認できる。				
		□ 溶接作業が適正であること		1				
			作業の使用区分が設計図書の作		恣じざる。			
			書を提出していることが確認で		= 1 .1° m/=== 4. 7			
		□ れ空けによって生したま。□ 欠陥部の発生が見られない	くれが削り取られているなど、 いこしが確認できる	さめ細やかに製作している。	ことが帷祕でする。			
			,	ン/作类冬/叶下云 涂壮/英田-孝/	の立会のもと施工していることが	ご体型できる		
			面を干力に乾燥させる寺画りん 後、2時間以内に塗装している		クエ云のもと旭工していることが	一性配じさる。		
					なも フ			
			されている屋内である場合は4 理(状況)記録を提出し、適I					
			哇(扒仇)記跡を促出し、週1 明書及び抜取検査証明書により		- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
		□ 室科の前負が前負規格証明□ その他	の 音及 い 扱 収 快 狙 証 り 音 に よ !	, 政司囚晋の江豚を個足し(いることが帷恥できる。			
		内容:						
		理由:						
		在四.						
1	1	1					1	

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	a '	b	b '	С	d	е
3. 出来形	PC橋、鋼橋上	□ 品質関係の試験結果のばら	っつきと評価対象項目の履行物	犬況(評価値)から判断する。<	判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来	部工工事(2/2)	[関連基準、各種施工管理	要領、その他設計図書に定め	られた試験]			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別組	氏-4参照。				ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
							小を打い以書された。	を11つた。
Ⅱ. 品質		[架設関係]						
		□ ボルトの締付確認が実施さ	られ、記録を保管していること	とが確認できる。				
		□ ボルトの締付機及び測定機	&器のキャリブレーションを 写	実施していることが確認できる	స్త.			
		□ 高力ボルトの締め付け方法	よが適切であることが確認でき	きる。				
		□ 高力ボルトの品質が、証明						
		□ 支承の据付で、コンクリー			ことが確認できる。			
		□ 架設にあたって、部材の応				33-4-77 - 3 - 4		
					を有することを確認していること	が確認できる。		
		□ 現場塗装部のケレン及び膊□ 現場塗装において、塗装作						
		□ 先物室表において、室表目□ その他	F来の景正条件に払照してい。	よいことが帷節できる。				
		内容:						
		四谷: 理由:						
		建 四.						
		「付属物関係]						
		□ 橋梁付属物(支承・伸縮業)	長置・排水装置・検査路)の(R管を適切に行っていることか	が確認できる。			
		□ 橋梁付属物(支承・伸縮器)	装置・排水装置・検査路)の品	品質が適正であることが確認で	できる。			
		□ 橋梁付属物の防錆処理を通	適切に行っていることが確認っ	できる。				
		□ 伸縮装置の据付け時の遊間	引量を適正に管理しているこ と	とが確認できる。				
		□ 後打ちコンクリートの管理	里を適正に行っていることが	雀認できる。				
		□ アンカーの施工位置が適正	Eであることが確認できる。					
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		0	のうち、評価対象外の項目は					
			は削除後の評価項目数を母数と	として、計算した比率				
		(%)計算の値で評価す		to THE POST OF THE				
		0 11 11 11 11 11	亥当項目数(0)/評価対象					
		④ なお、削除後の評価系	対象項目数が2項目以下の場合	計は c 評価とする。				
		●判断基準						
		●刊例左準	ばらつきで判断	可能 ばらつきで				
			50%以下 80%以下	100 0 - C C				
		90%以上	a a'	b b				
		7 5 %以上9 0 %未		b' b'				
		価 60%以上75%未	" *	ССС				
		60%未満	b' c	c c				
		, , , , , , ,		*ない場合は評価対象項目 (計	平価値)だけで評価する。			
1		Proposition of the second of t	2 3 10 2 - 6 3 10 10 6 6	- S. WINNING XII (I	i mas may 1, and a fill limit 1, and			

「記入方法」該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	a '	b	b '	С	d	е
3. 出来形 及び出来 ばえ	塗装工事	□ 品質関係の試験結果のば [関連基準、各種施工管理 ※ ばらつきの判断は別編		□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	測定値が不適切であった			
Ⅱ. 品質		□ ケレンを入念に実施してい □ 天候状況の確認、気温及で □ 選挙料を使用前に撹拌し、 □ 鋼材表面及び基づき作業等 □ 塗り残し、ながれ、しわ部の □ 塗料の品質規格証明 □ ケレン後、規程時間内に □ 現場に気温計及び湿度計 □ 塗装前にほこり、砂、油用 □ 空 計算にほこり、砂、油用 □ 容 : 理由 : ② 削除項目のあるで評価(%)計算のあるで評価(%)計算のあるで評価(%)計算に対象に対しているでは、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	いることが確認できる。 が湿度等の測定を行い、塗装付 容器の塗料を均一な状態にして 男れ、油類等を除去し塗装を行 里(状況)	下業を行っていることが確認で こから使用していることが確認で うっていることが確認できる。 Eに作業が行われていることが が確認できる。 こ、必要な塗膜厚を確保してい り設計図書の仕様を満足してい ととが確認できる。 ケレンかす等が付着してい な削除する。 として、計算した比率 な項目数(13) 合はで評価とする。 「形態」を超える 判断不可能 り り し し し し し し し し し し し し し し し し し	思できる。 が確認できる。 いることが確認できる。 いることが確認できる。 いることが確認できる。	が確認できる。		

(主任検査員用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考査項目	工種	а	a '	b	b '	С	d	е
3. 出来形 及び出来 ばえ	区画線工事	□ 品質関係の試験結果のば [関連基準、各種施工管理 ※ ばらつきの判断は別約	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、検査員が修補指示 を行った。				
Ⅱ. 品質		いることが確認できる。 □ 区画線の施工にあたって、 □ 区画線を消去の場合、表表 □ プライマーの施工にあた・ □ 区画線の材料が設計図書の □ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」 ② 削除項目のある場合に (%)計算の値で評価 ③ 評価値(%) = 第価値(%) = 第価値(%) = 第価値(が) = 第一位(が)	設置路面の水分、泥、砂じん 示材(塗料)のみの除去となって って、路面に均等に塗布してい の仕様を満足していることが確 しのうち、評価対象外の項目に は削除後の評価項目数を母数と する。 該当項目数(0)/評価対象 対象項目数が2項目以下の場合	及びほこりを取り除いて行っ におり、路面への影響が最小限 へることが確認できる。 に認できる。 は削除する。 にして、計算した比率 に項目数(6) 合は。評価とする。	となっていることが確認できる			

ク且次日	上生	a a D	C	u	е
3. 出来形	のり面処理工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験]		測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別紙-4参照。		ため、監督員が文書で指	
147		▼ はなううらん 自治日本の地位 オーション		示を行い改善された。	を行った。
TT 17 66		A TOTAL CAST			
Ⅱ. 品質		●評価対象項目			
		[共通]			
		□ 施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。(特にのり枠工、コンクリート又はモルタル吹付工関係)			
		□ 施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。			
		□ 盛土の施工にあたり、のり面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。			
		□ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。			
		□ 既設のり面の健全度を調査し、施工に反映していることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		「種子吹付工、植生基材吹付工関係」			
		□ のり面調査(土壌調査、のり面構造調査など)を実施しており、その結果を施工に反映していることが確認できる。			
		□ ネットなどの継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。			
		ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。			
		□ 吹付け厚さが均等であることが確認できる。			
		□ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。			
		□ 施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。			
		□その他			
		内容:			
		理由:			
		コンクリート又はモルタル吹付工関係]			
		E CONTRACTOR CONTRACTO			
		□ 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。			
		□ 金網の継目が1目半以上重ね合わせてあり、境界に隙間が生じていないことが確認できる。			
		□ 金網が破損を生じていないことが確認できる。			
		□ 吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。			
		□ 吹付けを2層以上に分けて行う場合、2層目を1時間以内に吹付けていることが確認できる。			
		□ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。			
		□ 不良簡所が生じないよう跳ね返り材料の処理を適切に行っていることが確認できる。			
		□ 水抜孔の施工が適正であることが確認できる。			
		□ その他			
		内容:			
		理由:			
		① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			
		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率			
		(%)計算の値で評価する。			
		(1.7)			
		③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(22)			
		④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
		●判断基準			
		ばらつきで判断可能 ばらつきで			
		5 0 %以下 8 0 %以下 8 0 %超之 判断不可能			
		90%以上 a a' b b			
		- 1			
	1				
I		60%以上75%未満 b b' c c			
	1	60%未満 b' c c c			
		注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。			
				1	

「記入方法」該当する項目の口にレマークを記入する。 (主任権者員用)

考査項目	工種	а	a '	b	b '	c	d	е
3. 出来形 及び出来 ばえ	防護さく工事	□ 品質関係の試験結果のば [関連基準、各種施工管理 ※ ばらつきの判断は別緒	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	測定値が不適切であった				
Ⅱ. 品質		ことが確認できる。 □使用材料の規格が設計図割 □資材置場の整理整頓等、減 □防護柵等の支柱の極工には □ガードケーブルの端末支柱 □ベースプレート支柱表す □ベースプレート支統表で、溶融亜鉛めっきの防錆処理を 一をの他内容:理由: □ 当該「評価対象項目」 ②削除項目のある場合(%)計算の値で評価・③ 評価値(0%)= 項のが表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	書の仕様を満足していることか 適切な材料保管が確認できる。 あたって、既設舗装面へ影響か 設計図書の仕様を満足してい 設計図書の仕様を満足していまかる場合、設計図書に定めます。 記計図書に定めます。 記すを土中に設置する場合、打影で 理に損傷を与えていないこと、確認が実施されていることが確 のうち、評価対象外の項目は よ削除後の評価項目数を母数とする。 該当項目数(0)/評価対象 対象項目数が2項目以下の場合 ばらつきで判断で 50%以下 80%以下 a a' a' a'	(本記できる。	緊張を導入していることが確認に定められた強度以上であることが適切な対応を行っていることが	Bできる。 ことが確認できる。		

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	a'		b	b '	С	d	е
3. 出来形	遮音壁工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。⟨判断基準参照⟩						□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理要領、その他設計図書に定められた試験]						測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指	測定値が不適切であった ため、検査員が修補指示
ばえ		※ ばらつきの判断は別約	示を行い改善された。	ため、横重貝が修備指示を行った。					
								-	21,720
Ⅱ. 品質		●評価対象項目							
		□使用材料の規格が設計図							
		□ 資材置場の整理整頓等、							
		□ 鋼管ぐいの貫入不能時の							
		□ 基礎工の施工にあたって、□ 床掘りの仕上り面におい							
		□ 基礎設置簡所について地							
		□ 落聴取画画別について地							
		□ 透光性遮音板の設置にあ							
		□ 遮音板が隙間を生じない。							
		□ 落下防止ワイヤーにねじ							
		□ その他							
		内容:							
		理由:							
		① 当該「評価対象項目」							
		② 削除項目のある場合							
		(%)計算の値で評価							
		③ 評価値(0%)=							
		④ なお、削除後の評価	対象項目数か2項目以	トの場合はc評価と	:する。				
		●判断基準							
		●刊 阿 基毕	ばらつき	きで判断可能	ばらつきで				
) %以下 80%を超え					
		90%以上	a	a' b	b				
		評 75%以上90%未	├満 a'	b b'	b '				
	価 6 0 %以上 7 5 %未満 b b c c								
		60%未満	b'	с с	С				
		注 試験結果の打点数等	が少なくばらつきの判	断ができない場合は	は評価対象項目(評価値)だけで評価する。			
l		1							1

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	а	a '	b	b '	С	d	е
3. 出来形 及び出来 ばえ	標識工事		要領、その他設計図書に定め	<況(評価値)から判断する。⟨¥ られた試験]	判断基準参照〉		□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、検査員が修補指示 を行った。
Π. 品質		□使用材料の規格が設計図割□ 板・シートの加工は、仕格□ 資材置場の整理整頓等、適回 床掘りの仕上り面において、□ 基礎工の施工にあたって、□ 基礎設置箇所について地想□ 溶融亜鉛めっきの防錆処理□ 器等ボルトが適切に締付に□ その他内容:理由: □ 当該「評価対象項目」②削除項目のある場合に(%)計算の値で網で調理目のある場合に(%)計算の値で側で調査の値での第)= ④ なお、削除後の評価なるお、削除後の評価なるが以上である場合に「多りの場合には、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対して	適切な材料保管が確認できる。 て、地山の乱れや不陸が生じた 既設舗装面へ影響が無いよう との地耐力を把握して、施工し 理を損傷することのない適切が すられていることが確認できる のうち、評価対象外の項目に は削除後の評価項目数を母数と する。 該当項目数(0)/評価対象 対象項目数が2項目以下の場合 ばらつきで判断 50%以下 80%以下 a a' a' b' b' c	が確認できる。	<u>ප්</u> තිය.			

「記入方法」該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	a'		b	b '	С	d	е
3. 出来形 及び出来 ばえ	トンネル内装 板工事	□ 品質関係の試験結果のば [関連基準、各種施工管理 ※ ばらつきの判断は別線	!要領、その他設計図書	□ 品質関係の測定方法又は 測定値が不適切であった ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	測定値が不適切であった				
Ⅱ. 品質		□ タイルの上端及び横端部(□ その他 内容: 理由: ① 当該「評価対象項目」 ② 削除項目のある場合((%)計算の値で評価・	とが確認できる。 適切な材料保管が確認な 大洗いを行い、ほこり等 目ゴテにより施工してい した目地ごとに詰め込む こシーリング材を三角に のうち、評価対象外は は削除後の評価項目数に する。 該当項目数(0)/言	できる。 等を除去していること かることが確認できる み、目違い及びこても こ施工しいることが確 の項目は削除する。 を母数として、計算し 呼価対象項目数(8	とが確認できる。 る。 むらのないように 確認できる。 した比率 3)	3できる。 - 施工していることが確認できる	5.		
		●判断基準		で判断可能 %以下 80%を超える	ばらつきで 判断不可能				
		評価値 90%以上 75%以上90%未 60%以上75%未 60%以上75%未 60%未満 注試験結果の打点数等/							

考查項目別運用表(品質管理中間檢查用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考查項目 工種 □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は 3. 出来形 造園工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない 測定値が不適切であった 測定値が不適切であった 及び出来 ●評価対象項目 ため、監督員が文書で指 ため、検査員が修補指示 □ 土壌硬度調査及び土壌試験(PH)、現場透水試験を実施し施工に反映していることが確認できる。 ばえ 示を行い改善された。 を行った。 □ 活着が促されるように管理していることが確認できる。 Ⅱ.品質 □ 樹木などに損傷、鉢くずれ等がないよう保護養生を行っていることが確認できる。 □ 樹木等の生育に害のある害虫等がいないことが確認できる。 □ 根茎の状態が良好な材料を使用していることが確認できる。 □ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っており、植栽箇所に応じた樹木の向きや樹形となっていることが確認できる。 □ 肥料が直接樹木の根にふれないよう均一に施肥していることが確認できる。 □ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 □ 支柱・添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 □ 樹木名標板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 □ 芝生は雑草の混入がない材料を使用していることが確認できる。 □ 芝生、マルチング、植栽簡所などの施工簡所に不陸や滞水がないことが確認できる。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・ a 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(13) 評価値が60%未満・・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

(主任検査員用)

考查項目別運用表(品質管理中間檢查用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。

考查項目 工 種 他の評価に該当しない 3. 出来形 建築工事 優れている bより優れている やや優れている cより優れている □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は ●評価対象項目 及び出来 測定値が不適切であった 測定値が不適切であった げぇ □ 材料・製品の品質・性能が、証明書・試験成績書等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ため 監督員が文書で指 □ 材料の品質確認記録の内容が整理され、適切であることが確認できる。 示を行い改善された。 を行った。 Ⅱ.品質 □ 施工の各段階における完了時の試験及び記録の内容が、適切であることが確認できる。 □ 施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 □ 品質管理方法が施工計画書等で明確に記載されており、それに基づいた管理記録が確認できる。 □ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。 □ 配線、配管を承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。 □ 危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。 □ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど、積極的に取り組んでいることが確認できる。 □ 施工中の現場養生が適切である。 □ その他 内容: 理由: ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・ a ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 評価値が80%以上90%未満・・・ a' ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 評価値が70%以上80%未満・・・ b (%)計算の値で評価する。 評価値が60%以上70%未満・・・ b' ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(12) 評価値が60%未満・・・・・ c ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

(主任檢查員用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

277-7-7-10-12								
考査項目	工種	a	a'	b	b '	С	d	e
3. 出来形	上記以外の	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来	施設工事	●評価対象項目					測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		□ 操作スイッチや表示灯が	承諾図書のとおり配置され、携	操作性に優れていることが確認	できる。		ため、監督員が文書で指	ため、検査員が修補指示
		□ 操作制御関係の機能及び	生能が、設計図書の仕様を満足	雀認できる。	示を行い改善された。	を行った。		
Ⅱ. 品質		□ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認で	できない場合において、工場試	験などで確認していることが確	雀認できる。		
		□ 材料及び構成部品の品質	及び形状について、設計図書等	等と適合が確認できる証明書等	を整備していることが確認でき	きる。		
		□ 設備全体及び各機器におい	ハて、設計図書に規定した品質	質及び性能を試験記録により確	認できる。			
		□ 設計図書の仕様を踏まえる	た詳細設計を行い、承諾図書と	こして提出していることが確認	できる。			
		□ 機器の機能及び性能に係る	わる成績書が整理され、品質 <i>0</i>)確認ができる。				
		□ 配線、配管を承諾図書の	とおり敷設していることが確認	恩できる。				
		□ 設備の構造や機器の配置:	が、交換頻度の高い部品等のダ	を換作業を容易にできるよう工	夫していることが確認できる。			
		□ 平常時の状態を示すラベ	ルなどが見やすい状態で表示 l	していることが確認できる。				
		□ 計器類に運転時の適用範	囲を見やすく表示していること	こが確認できる。				
		□ 危険箇所に表示又は防護	をしていることが確認できる。					
		□ 現地状況を勘案し、施工:	方法等についての提案を行うな	ょど、積極的に取り組んでいる	ことが確認できる。			
		□ その他						
		●判断基準						
		評価値90%以上・・・	· · · · · · a ① 当詞	该「評価対象項目」のうち、評	延価対象外の項目は削除する。			
		評価値が80%以上90%	%未満・・・ a' ② 削降	余項目のある場合は削除後の評	延価項目数を母数として、計算	した比率		
		評価値が70%以上80%	%未満・・・ b (%)計算の値で評価する。				
		評価値が60%以上70%	%未満・・・ b' ③ 評f	面値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(14	1)		
		評価値が60%未満・・	・・・・・ c ④ な	お、削除後の評価対象項目数が	2項目以下の場合は c 評価と	する。		

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工 種	a	a '	b	b '	С	d	е
3. 出来形	耐震補強工事	□ 品質関係の試験結果のばら	。 らつきと評価対象項目の履行場	: : 況(評価値)から判断する。<	判断基準参照>	•	□ 品質関係の測定方法又は	
及び出来	(1/2)	[関連基準、各種施工管理	要領、その他設計図書に定め	られた試験]			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別総	紙-4参照。				ため、監督員が文書で指示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
							小を11い以書された。	を11つた。
Ⅱ.品質		●評価対象項目						
		[コンクリート巻立工関係]						
		□ 構造物の劣化状況をよく排	把握して、適切な対策を施して	こいることが確認できる。				
		□ 監督員の指示事項又は設言	計図書に対して、現地状況を勘	加案し、施工方法や構造につい	、 ての提案を行うなど積極的に取	なり組んでいることが確認		
		できる。						
					リ骨材反応抑制等)が確認でき	:る。		
			要な試験を実施しており、温度					
			コンクリート供試体が、当該明					
			した運搬時間、打設時の投入高	確認できる。				
		(寒中及び暑中コンクリー	. , /	<u> </u>				
				:後に型枠及び文保上の取り外	しを行っていることが確認でき	్ చ		
		□鉄筋の規格がミルシートで	で帷祕でさる。 強度の試験値が、設計図書の仕					
			^{風及の武線値が、設計図書の1} さび、どろ、油等の有害物が鉛					
			さい、ころ、価等の行音物が変 設計図書の仕様を満足している		いることが推修しまる。			
			設計図書の仕様を満足している					
		□ 圧接作業が適正であること		C C N PEDE C C D O				
			数が、設計図書の仕様を満足し	ていることが確認できる。				
					おり、規格値を満足しているこ	とが確認できる。		
		□ コンクリートの打設前に、	打継ぎ目処理を適切に行って	いることが確認できる。		-		
		□ クラックがある場合、計測	則等を適切に行っていることか	確認できる。				
		□ その他						
		内容:						
		理由:						
		[鋼板巻立工関係]						
		【工場製作関係】						
			明する書類又は現物により照合	うしていることが確認できる。				
		□ 溶接作業が適正であること	,	LANGE OF THE STATE OF THE STATE OF		87437 3 7		
					立会のもと施工していることが	雑能できる。		
			後、2時間以内に塗装している * * * でいる最中でする場合は、		: ± 7			
			されている屋内である場合は4 明書及び抜取検査証明書により					
					っことが確認できる。 ぶ行われていることが確認できる			
			A音に塞りさけ来自住(朳仇) また、補修が適正であること		-114740 C V - 20 こ C V - 4年時 C G 20	00		
		【架設関係】	また、帰じが過止であること	. и чено с с · о 。				
			管理が適正であることが確認で	できる 。				
			また、補修が適正であること					
		【現場塗装関係】						
		□ 塗装作業にあたり、塗装値	面を十分に乾燥させる等適切な	作業条件下で、塗装管理者の	立会のもと施工していることが	確認できる。		
		□ 現場塗装部のケレン及び胴	膜厚管理を適切に行っているこ	とが確認できる。				
		□ 現場塗装において、塗装作	作業の禁止条件に抵触していた	いことが確認できる。				
		□ 塗料を使用前に撹拌し、名	容器の塗料を均一な状態にして	こから使用していることが確認	いできる。			
		【その他】						
		□ その他						
		内容:						
		理由:						

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	а	a'	b	b '	С	d	е
3. 出来形	耐震補強工事	□ 品質関係の試験結果のば	らつきと評価対象項目の履行	状況(評価値)から判断する。<	判断基準参照>		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
	(2/2)	[関連基準、各種施工管理	里要領、その他設計図書に定め	りられた試験]			測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別線	紙-4参照。				ため、監督員が文書で指 示を行い改善された。	ため、検査員が修補指示 を行った。
							小を11い以書された。	を11つた。
Ⅱ.品質		[繊維巻立工関係]						1
		□ 構造物の劣化状況をよく	把握して、適切な対策を施し	ていることが確認できる。				1
		□ 監督員の指示事項又は設	計図書に対して、現地状況を	勘案し、施工方法や構造につい	いての提案を行うなど積極的に取	り組んでいることが確認		1
		できる。						
		_ =			笹工管理方法などを満足している	ことが確認できる。		
				させて施工していることが確認	忍できる。			<u>'</u>
			理を入念に実施していること					
		_ :=	湿度等の条件を整理・記録し		7 - 3 -			
				書等を整備していることが確認	なできる。			
			能力を満足していることが確					
		□ 目往の品質向上に向けた!□ その他	取り組みがみられることが確	認できる。				
		内容:						<u>'</u>
		理由:						1
		「構造物掘削工関係」						1
			の処理(狭小部の施工)を適	正に行っていることが確認でき	きる。			1
		□ 構造物掘削床付け面の排	水(釜場設置等)を適切に実	施していることが確認できる。				
		□ その他		-				1
		内容:						1
		理由:						1
								1
		0	」のうち、評価対象外の項目					
		0	は削除後の評価項目数を母数	として、計算した比率				1
		(%)計算の値で評価	, - 0					1
		0	該当項目数(0)/評価対象	*				1
		(4) なお、削除後の評価	対象項目数が2項目以下の場	合は c 評価とする。				1
		●判断基準						1
		● 刊 阿 巫 毕	ばらつきで判断	断可能 ばらつきで				1
			50%以下 80%以7	,				
		90%以上	a a'	b b				1
		75%以上90%未	k満 a' b	b' b'				1
		価 60%以上75%未	− ト満 b b'	СС				
		60%未満	b' c	сс				1
		注 試験結果の打点数等	が少なくばらつきの判断がで	きない場合は評価対象項目(記	平価値)だけで評価する。			1
								1

[記入方法]該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	a'	b)	b '	С	d	е
3. 出来形	はく落対策工事	□ 品質関係の試験結果のばら	つきと評価対象項目の履	行状況(評価値)から	判断する。	〈判断基準参照〉		□ 品質関係の測定方法又は	□ 品質関係の測定方法又は
及び出来		[関連基準、各種施工管理要	₹領、その他設計図書にデ	≧められた試験]				測定値が不適切であった	測定値が不適切であった
ばえ		※ ばらつきの判断は別紙・	- 4 参照。					ため、監督員が文書で指	
								示を行い改善された。	を行った。
Ⅱ.品質		●評価対象項目							
		□ 繊維シートを施工するにある	たり、施工面を十分に乾	燥させて施工してい	ることが確	認できる。			
		□ ブラスト・W J を入念に実力	施していることが確認で	きる。					
		□ 施工時の天候、気温及び湿り	度等の条件を整理・記録						
		□ 塗料を使用前に撹拌し、容	器の塗料を均一な状態に						
		□ 塗膜に有害な付着物がない。	ことが確認できる。						
		□ 品質形状が均一で、設計図	書等との確認ができ、証						
		□ 機能について、設計図書等。	との適正が確認でき、そ	の証明書等を整備し	ていること	が確認できる。			
		□ 全体として性能(現地試験系	結果) がよく、所定の能	力を満足しているこ	とが確認で	きる。			
		□ 完成図書において、機能(作	性能)が容易に判別でき	る資料等を整備して	いることが	確認できる。			
		□ 自社の品質向上に向けた取	り組みがみられることが	確認できる。					
		□ はつり処理では鋼材に損傷	を与えないとともに断面	修復に支障とならな	い平坦性を	確保していることが確認できる。			
		□ 断面補修においては既設コ	ンクリートと一体化し、	所定の機能を有して	いることが	確認できる。			
		□ その他							
		内容:							
		理由:	,						
		 当該「評価対象項目」(のうち、評価対象外の項	目は削除する。					
		② 削除項目のある場合は	削除後の評価項目数を母	数として、計算した	比率				
		(%)計算の値で評価する	る。						
		③ 評価値(0%)=該	当項目数(0)/評価	対象項目数(13)					
		④ なお、削除後の評価対象	象項目数が2項目以下の	場合はc評価とする	0.0				
		●判断基準							
			ばらつきで半	川断可能 は	ばらつきで				
			50%以下 80%以	人下 80%を超える 判	川断不可能				
		90%以上	a a'	b	b				
		75%以上90%未満	崮 a' b	b '	b '				
		値 60%以上75%未満	b b'	С	С				
		60%未満	b' c	С	С				
		注 試験結果の打点数等が	少なくばらつきの判断が	できない場合は評価	5対象項目(評価値)だけで評価する。			

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (主任検査員用)

考査項目	工種	a	b	С	d
3. 出来形及		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
び出来ばえ	土木工事	●評価対象項目			
- , ,,,,,,,	_ , ,	[コンクリート構造物、トンネル工、海岸工]	① 当該「評価対象項目」の	うち、評価対象外の項目は削除する。	●判断基準
Ⅲ. 出来ばえ		□ コンクリート構造物の表面状態が良い。		徐後の評価項目数を母数として、計算した比率	80%以上 a
штырктале		□ コンクリート構造物の通りが良い。	(%)計算の値で評価する。	NO OF MISSION OF THE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OFFICE OF	評 6.0%以上8.0%未満 b
		□ 天端、端部及び打継ぎ目の仕上げが良い。		頁目数(0)/評価対象項目数(32)	曲 4 0 0 / 10 1 0 0 0 / 十 / 1
		□ クラックがない。		質目数が2項目以下の場合はc評価とする。	値 40%以上60%未満 c 40%未満 d
		— : : : : : :	生 なわ、刑体後の評価対象を	長日数か2項目以下の場合はC計画とする。	40/6水個 0
		□漏水がない。			
		□ 全体的な美観が良い。			
		[切盛土工]			
		□ 仕上げが良い。			
		□ 通りが良い。			
		□ 規定された勾配が確保されている。			
		□ のり面勾配の変化部について、干渉部を設ける	など適切に施工されている。		
		□ 天端及び端部の仕上げが良い。			
		□ 用排水工等に細心の注意が払われ、きめ細かな	施工がされている。		
		□ 構造物へのすりつけなどが良い。			
		□ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足す	るよう施工されている。		
		□ 全体的な美観が良い。			
		[のり面工]			
		□ 通りが良い。			
		□ 植生、吹付等の状態が均一である。			
		□端部処理が良い。			
		□ 全体的な美観が良い。			
		「基礎工及び地盤改良工」			
		□ 土工関係の仕上げが良い。			
		□ ユエス (
		I			
		□ 天端及び端部の仕上げが良い。	白シボタミフ		
		□ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの	及さか何える。		
		※ 地盤改良工はc評価とする。			
		[地すべり対策工]			
		□ 地山との取合いが良い。			
		□ 天端及び端部の仕上げが良い。			
		□ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの	良さが伺える。		
		□ 全体的な美観が良い。			
		[護岸・根固・水制工]			
		□ 通りが良い。			
		□ 材料のかみ合わせがよく、クラックがない。			
		□ 天端及び端部の仕上げが良い。			
		□ 既設構造物とのすりつけが良い。			
		□ 全体的な美観が良い。			
	舗装工事	●評価対象項目	<u> </u>		
		[共通]	① 当該「評価対象項目」の	うち、評価対象外の項目は削除する。	●判断基準
		□ 舗装の平坦性が良い。	② 削除項目のある場合は削降	徐後の評価項目数を母数として、計算した比率	80%以上 a
		□ 構造物の通りが良い。	(%)計算の値で評価する。		評 60%以上80%未満 b
		□ 端部処理が良い。	③ 評価値(0%)=該当」	頁目数(0)/評価対象項目数(10)	値 40%以上60%未満 c
		□ 構造物へのすりつけ等が良い。	④ なお、削除後の評価対象項	頁目数が2項目以下の場合はc評価とする。	4 0 %未満 d
		□ 雨水処理が良い。			
		□ 全体的な美観が良い。			
		[アスファルト舗装]			
		□ ローラーマークがなく平坦性が良い。			
		□ 高機能舗装の空隙がつぶれてなく均一な路面に	たっている		
		[コンクリート舗装]	·4 / C v · O o		
		□ 天端、端部及び打継ぎ目の仕上げが良い。			
		□ ス端、端部及び打極さ日が圧上りが良い。 □ コンクリート構造物が瀝青材等によって汚れて	しいたとい		
		┃ ローングリート博理物が促用物 寺によつし行礼し	v '', r v 'o		

別紙-3-2[27] 考查項目別運用表 (品質管理中間檢查用) [記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) T. 種 考查項目 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及 ●評価対象項目 び出来ばえ PC橋上部工 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。 丁事 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断其淮 Ⅲ. 出来ばえ □ コンクリート構造物の通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 60%以上80%未満 □ 天端及び端部の仕上げが良い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 40%以上60%未満 □ 支承部の仕上げが良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(9) С \square クラックがない。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 d □ 漏水がない。 □ 床版面の平坦性が良い。 □ PC鋼材緊張後の後処理が良い。 □ 全体的な美観が良い。 鋼橋工事 ●評価対象項目 □ 表面に補修簡所が無い。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 部材表面に傷及び錆が無い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 a □ 溶接に均一性がある。 (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 h 価 □ 塗装に均一性がある。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) 40%以上60%未満 С 4) なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 □ 床版面の平坦性が良い。 d □ 全体的な美観が良い。 塗装工事 ●評価対象項目 (工場途装を除く) ●判断基準 □ 塗装の均一性が良い。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 □ 補修箇所が無い。 h 価 □ ケレンの施工状況が良好である。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 С □ 全体的な美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 d 区画線工事 ●評価対象項目 □ 塗料の塗布が均一である。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 80%以上 □ 視認性が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 а 60%以上80%未満 □ 接着状態が良い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 □ 施工前の清掃が入念に実施されている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 C 40%未満 □ 全体的な美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 d のり面処理工事 ●評価対象項目 □ 植生、吹付等が均一で仕上がりが良い。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 □ のり肩・のり尻と地山等とのすりつけ等、端部処理や通りが良い。 a (%)計算の値で評価する。 60%以上80%未満 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工目地等の仕上がりが良い。 b 価 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(5) 40%以上60%未満 □ 排水処理が適正に施工されている。 □ 全体的な美観が良い。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 防護さく工事 ●評価対象項目 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 通りが良い。 □ 端部処理が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 60%以上80%未満 □ 部材表面に傷、錆が無い。 (%)計算の値で評価する。 b 価 □ 既設構造物等とのすりつけが良い。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6) 40%以上60%未満 С □ きめ細やかに施工されている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 d □ 全体的な美観が良い。 遮音壁工事 ●評価対象項目 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 □ 通りが良い。 ●判断基準 □ 端部処理が良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 □ 部材表面に傷、錆が無い。 (%)計算の値で評価する。

③ 評価値(

0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(6)

④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。

□ 既設構造物等とのすりつけが良い。

□ 全体的な美観が良い。

□ 土工処理及び植栽との取り合い等きめ細やかな施工がなされている。

ſ	477	80%以上	a
	評価	60%以上80%未満	b
	値	40%以上60%未満	С
	1122	40%未満	d

考査項目	工 種	a	b	c	d
3. 出来形及		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ		●評価対象項目 □ 設置位置に配慮がある。 □ 標識の向き並びに角度及び支柱の通りが良い。 □ 標識板及び支柱に変色がない。 □ 支柱基礎が入念に埋め戻されている。 □ 全体的な美観が良い。	② 削除項目のある場合は (%)計算の値で評価する③ 評価値(0%)=該	のうち、評価対象外の項目は削除する。 削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 5。 当項目数(0)/評価対象項目数(5) 象項目数が2項目以下の場合は c評価とする。	●判断基準 80%以上 a 評価 60%以上80%未満 b b 40%以上60%未満 c d
	トンネル内装板工事	●評価対象項目 □ 通りが良い。 □ 端部処理が良い。 □ 部材表面に傷、錆が無い。 □ きめ細やかな施工がなされている。 □ 全体的な美観が良い。	② 削除項目のある場合は (%)計算の値で評価する③ 評価値(0%)=該	のうち、評価対象外の項目は削除する。 削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 る。 当項目数(0)/評価対象項目数(5) 象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。	●判断基準 Frame
	造園工事	●評価対象項目 □ 樹木の活着状況が良い。 □ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 □ 支柱の取り付けが堅固である。 □ 植物材料の特性を理解し、各所の納め方や建築物等との □ 寄植え、生垣、列植の高さ調整が出来ている。 □ 関路舗装は平坦に保たれ、付属物等との高さ調整が出来 □ 全体的な美観が良い。	② 削除項目のある場合は (%)計算の値で評価する のバランスが良い。 ③ 評価値 (0%)=該 ④ なお、削除後の評価対象	のうち、評価対象外の項目は削除する。 削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 5。 当項目数(0)/評価対象項目数(7) 象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。	●判断基準 1

考查項目別運用表 (品質管理中間檢查用)

[記入方法] 該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任檢查員用) 考查項目 T. 種 Ы 3. 出来形及 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている び出来ばえ 建築工事 ●評価対象項目 □ きめ細かな施工がなされ取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断其淮 Ⅲ. 出来ばえ □ 関連工事(工種)または既存部分との調整がなされ調和が良い仕上げ ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 а 評 60%以上80%未満 (%)計算の値で評価する。 である。 b 価 40%以上60%未満 □ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮がされている。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(18) С □ 仕上がりの状態が良好で傷、錆、汚れ、色むら等がない。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 40%未満 d □ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工継目及び端部の仕上げが良い。 □ コンクリート構造物にクラック、漏水がない。 □ コンクリート打設前の配筋・型枠は整然と組立てられている。 □ アンカーボルト等が適切かつバランスよく施工されている。 □ 躯体鉄骨は精度よく組み立てられている。 □ 錆止め塗装は塗膜の損傷がなく、仕上げよく施工されている。 □ 仕上げ材は凹凸がなく。入隅・出隅部とも精度良く施工されている。 □ 開口部はがたつき・ばたつきがなく、円滑に開閉できている。 □ 段差処理は仕上げよく施工されている。 □ 付帯設備は堅牢かつ確実に取り付けられている。 □ 配管・配線は種別毎に適切かつ整然と施工されている。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能性が良い。 □ 近傍の設備などと干渉がない。 上記以外の ●評価対象項目 施設工事 □ きめ細やかな施工がなされている。 ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ●判断基準 □ 諸設備の据付けに傾斜がなく通りが良い。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、計算した比率 80%以上 60%以上80%未満 □ 諸設備が堅牢かつ確実に据付けられている。 (%)計算の値で評価する。 b 価 □ ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 ③ 評価値(0%)=該当項目数(0)/評価対象項目数(22) 40%以上60%未満 値 C 40%未満 □ 部材表面に傷、錆、汚れがない。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 d □ 関連工事(工種)または既存部分との調整がなされ調和が良い仕上げである。 □ 公共物として、安全の確保、環境及び維持管理への配慮がなされている。 □ 溶融亜鉛メッキ処理の全体的な美観が良い。 □ 溶融亜鉛メッキ処理により材料に歪が無い又は少ない。 □ コンクリート構造物の表面状態、通り、施工継目及び端部の仕上げが良い。 □ コンクリート基礎と埋め戻し土のすりつけ、取り合いが適切に施工されている。 □ 配管・配線は種別毎に適切かつ整然と施工されている。 □ アンカーボルト等が適切かつバランスよく施工されている。 □ 機器承諾図・施工図等に従い整然と製作・施工されている。または、整然と施工されることが施工計画書・機器承諾図・施工図等で確認できる。 □ 動作状態において、電気的及び機械的な異常が無く、総合的な機能性が良い。 □ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 □ 近傍の設備などと干渉がない。 □ (バックアップがある場合) 障害時に所定の時間内に切り替わる。 □ 運転時の騒音が規定範囲内に収まっている。 □ 異なるメーカーの機器間でも通信が成立する。 □ 当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。 □ 全体的な美観が良い。

「記入方法」該当する項目の□にレマークを記入する。 (主任検査員用)

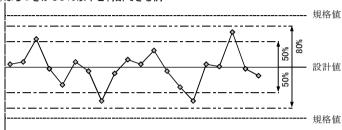
考査項目	工種	a	b	С	d
3. 出来形及		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
び出来ばえ	耐震補強工事 [コンクリート	●評価対象項目 □ コンクリート構造物の表面状態が良い。	① 当該「評価対象項目」 <i>の</i>	うち、評価対象外の項目は削除する。	●判断基準
Ⅲ. 出来ばえ		□ コンクリート構造物の通りが良い。 □ 施工継目及び端部の仕上げが良い。 □ コンクリート構造物にクラックがない。 □ コンクリート構造物に漏水がない。 □ 細部に渡り細心の注意が払われ、きめ細やかな施工がされ □ 全体的な美観が良い。	(%)計算の値で評価する ③ 評価値(0%)=該当 ④ なお、削除後の評価対象	除後の評価項目数を母数として、計算した比率。 ・。 3項目数(0)/評価対象項目数(7) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価値 80%以上 a 60%以上80%未満 b 40%以上60%未満 c 40%未満 d
	[鋼板巻立工]	●評価対象項目 □ 部材表面に傷及び錆が無い。 □ 溶接に均一性がある。 □ 塗装に均一性がある。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所が無い。 □ 表面処理の施工状況が良好である。 □ 全体の美観が良い。	② 削除項目のある場合は削(%)計算の値で評価する③ 評価値(0%)=該当	9 うち、評価対象外の項目は削除する。 除後の評価項目数を母数として、計算した比率。 6 項目数(0)/評価対象項目数(7) 1項目数が2項目以下の場合はc評価とする。	●判断基準 80%以上 a 60%以上80%未満 b 40%以上60%未満 c 40%未満 d
	耐震補強工事 [繊維巻立工]	●評価対象項目 □ 塗装に均一性がある。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所が無い。 □ 表面処理の施工状況が良好である。 □ 全体の美観が良い。	② 削除項目のある場合は削(%)計算の値で評価する③ 評価値(0%)=該当	9 うち、評価対象外の項目は削除する。 除後の評価項目数を母数として、計算した比率。 。 1項目数(0)/評価対象項目数(5) 1項目数が2項目以下の場合はc評価とする	●判断基準 80%以上 a 60%以上80%未満 b 40%以上60%未満 c 40%未満 d
	はく落対策工事	●評価対象項目 □ 塗装に均一性がある。 □ 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 補修箇所が無い。 □ 表面処理の施工状況が良好である。 □ 全体の美観が良い。	② 削除項目のある場合は削(%)計算の値で評価する③ 評価値(0%)=該当	うち、評価対象外の項目は削除する。 除後の評価項目数を母数として、計算した比率 。 (項目数(0)/評価対象項目数(5) (項目数が2項目以下の場合はc評価とする。	●判断基準 1

【記入方法及び留意事項】

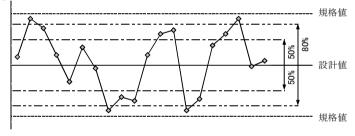
- 1. VE評価は、VE適用工事のみ評定を実施する。
 - VE評定点は、入札時VE評価点と契約後VE評価点を加算したものとする。
 - VE評定点は、監督員が評定するものとする。この場合、評定点合計が100点を超えることがあってもよい。
- 2. 出来形及び品質のばらつきの考え方 [管理図の場合]

(上・下限値がある場合)

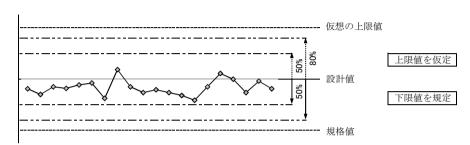
①ばらつきが50%以下と判断できる例



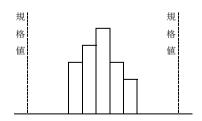
②ばらつきが80%以下と判断できる例

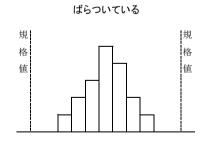


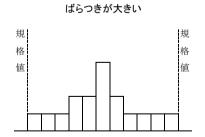
(下限値のみの場合)



〔度数表または、ヒストグラムの場合〕 ばらつきが少ない







- 3. 異なる工事種別の組合せによる工事の取り扱い
 - (1) 対象となる工事種別毎の評価対象項目(評価対象外の項目は削除)を合計し、該当する評価項目の率(評価値)で評価する。(考査項目により、以下の評価方法から選択)

評価値が90%以上・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・b 評価値が80%以下・・・・・・・・・c 評価値が90%以上・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・。 評価値が70%以上80%未満・・・・b 評価値が60%以上70%未満・・・・b' 評価値が60%以下・・・・・・・c

		可能	ばらつきで		
		50%以下 80%以下		80%を超える	判断不可能
	90%以上	а	a'	b	b
評価	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
値	60%以上75%未満	b	b'	С	С
"-	60%未満	b'	С	С	С

- 4. その他
 - ・「4. 工事特性」「5. 創意工夫」「6. 社会性等」は、受注者から提出された実施状況に関する書類を活用して、評定を行う。

しゅん 功 評 定 表

 平成
 年
 月
 日

 事務所名:
 事務所

							• •	3 /// IT			/ // !
工事	名										
契 約 金	額	当初:				最	と終 :				
工	期	当初:	平成	年	月	日	最終:	平成	年	月	目
しゅん功年月	月日			平原	戈	年	月	目			
しゅん功検査年	月日			平原	戈	年	月	目			
受 注 者	氏	名									
現場代理。	人氏名	7									
主任・監理技術		, I									
検 査 担 当 🧦	者 氏 名	7								印	
監督員所属	· 氏 彳	7								印	
主任補助監督員別	「属・氏名	7								印	
主任検査員所	属・氏名	7								印	
① 主任補助監督	員評定点									点	
② 監督員言	平定点									点	
③ 主任検査員	評定点	į								点	
④ 法 令 遵	守 等				_					点	
⑤ V E 評	定点									点	
⑥技術提案	不履行				_					点	
⑦ 評 定 点	合 計									点	

- 注1) 主任補助監督員、監督員、主任検査員の評定点は小数第1位(小数第2位を四捨五入) までとする。
 - 2) 評定点合計は、小数第1位を四捨五入することにより整数とする。
 - 3) 主任検査員の評定点は、品質中間評定点としゅん功評定点を合計した点数とする。
 - 4) ④法令遵守等及び⑤VE評定点は、監督員が記入する。
 - 5) 一部しゅん功の場合は、監督員、主任補助監督員及び主任検査員が各々評定を行い、しゅん功検査の資料として評定点算出表等を作成するが、この評定表は作成しない。
 - 6) 一部しゅん功後のしゅん功検査は、一部しゅん功検査で作成した資料を参考に、監督員、 主任補助監督員及び主任検査員が各々改めて評定を行う。

 〇〇
 第
 号

 平成
 年
 月

 日

契約の相手方 所在地 商号又は名称 代表者氏名

殿

中日本高速道路株式会社〇〇支社長

工事成績評定通知書

貴社が受注した工事について、請負工事成績評定要領に基づき評定した結果を通知します。

なお、評定の結果に疑問があるときは、当職に対してその疑問の旨を付して、この書面の通知を受けた日から起算して7日(「休日」を含まない。)以内に書面により、説明を求めることができます。

疑問に対する説明は、書面により郵送いたします。

なお、説明を求める場合の書面のあて先、送付先及び手続き等についての問い合わせ 先は下記のとおりです。

記

1 工 事 名 〇〇〇工 事 (契約番号 000000)

2 工 期 平成〇年〇月〇日~平成〇年〇月〇日

- 3 しゅん功検査年月日 平成 ○年 ○月 ○日
- 4 成績評定
 - ① 評定点 ○ 点 項目別評定点は、別表1のとおり
 - (① 修正評定点
- ○ 点 【評定点が修正された場合のみ】)
- 5 あて先、送付先及び手続き等の問い合わせ先 (あて先) 中日本高速道路株式会社〇〇支社長 (送付先及び手続き等の問い合わせ先)

〒○○○-○○○ ○○県○○市○○丁目○○番地 中日本高速道路株式会社○○支社 ○○部 契約チーム TEL ○○○-○○○-○○○ (代) 内線○○○○

 〇〇
 第
 号

 平成
 年
 月

 日

契約の相手方 所在地 商号又は名称 代表者氏名

殿

中日本高速道路株式会社〇〇支社長

工事成績評定通知書(品質中間評定)

貴社が受注した工事について、請負工事成績評定要領に基づき評定した結果を通知します。

なお、評定の結果に疑問があるときは、当職に対してその疑問の旨を付して、この書面の通知を受けた日から起算して7日(「休日」を含まない。)以内に書面により、説明を求めることができます。

疑問に対する説明は、書面により郵送いたします。

なお、説明を求める場合の書面のあて先、送付先及び手続き等についての問い合わせ 先は下記のとおりです。

記

エ 事 名 ○○○□工 事(契約番号 000000)
 エ 期 平成○年○月○日~平成○年○月○日
 品質管理中間検査年月日 平成 ○年 ○月 ○日
 成績評定

 事定点
 係正評定点

 「 資目別評定点は、別表 1 − 2 のとおり
 「 資子によが修正された場合のみ」

5 あて先、送付先及び手続き等の問い合わせ先 (あて先) 中日本高速道路株式会社〇〇支社長 (送付先及び手続き等の問い合わせ先)

〒○○○-○○○ ○○県○○市○○丁目○○番地 中日本高速道路株式会社○○支社 ○○部 契約チーム TEL ○○○-○○○-○○○ (代) 内線○○○○ 項 目 別 評 定 点(しゅん功評定)

块 口 別		のの対けたり
評価項目	細	評定点/満点
1. 施工体制	I. 施工体制一般	/ 3.0点
	Ⅱ. 配置技術者	/ 4.0点
2. 施工状况	I. 施工管理	/10.0点
	Ⅱ. 工程管理	/10.0点
	Ⅲ. 安全対策	/15.0点
	IV. 対外関係	/ 3.0点
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	/10.0点
	Ⅱ. 品 質	/20.0点
	Ⅲ. 出来ばえ	/10.0点
4. 工事特性(加点のみ)	施工条件等への対応	/ 5.0点
5. 創意工夫(加点のみ)	創意工夫	/ 5.0点
6. 社会性等(加点のみ)	地域への貢献等	/ 5.0点
7. 法令遵守等(減点のみ)		点
8. 技術提案不履行(減点のみ)		点
評定点合計		/100.0点
9. VE評価 ※		点
評定点総合計		点

別表 1-2

項 目 別 評 定 点(品質中間評定)

	一 元 二 二 二	
評価項目	細別	評定点/満点
1. 施工状況	I. 施工管理	/18.75点
2. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	/18.75点
	Ⅱ. 品 質	/37.50点
	Ⅲ. 出来ばえ	/25.00点
評定点合計		/100.0点
評定点総合計		点

 〇〇
 第
 号

 平成
 年
 月

 日

契約の相手方 所在地 商号又は名称 代表者氏名

殿

中日本高速道路株式会社〇〇支社長

工事成績評定に係る説明書(回答)

平成 年 月 日付けで貴社から説明を求められました評定内容について、下記のとおり回答します。

本説明書に疑問があるときは、当職に対してその疑問の旨を付して、この書面の回答を受けた日から起算して7日(「休日」を含まない。)以内に書面により、再説明を求めることができます。

なお、再説明は○○委員会 【各支社で活用する委員会名を記載する】 の審議を経た上で行います。

疑問の旨に対する再説明は、書面により郵送いたします。

また、再説明を求める場合の書面のあて先、送付先及び手続き等についての問い合わせ先は下記のとおりです。

記

1 工 事 名 〇〇〇〇 工 事 (契約番号 000000)

- 2 疑問に対する回答
- 3 あて先、送付先及び手続き等の問い合わせ先 (あて先) 中日本高速道路株式会社○○支社長 (送付先及び手続き等の問い合わせ先)

〒○○○-○○○ ○○県○○市○○丁目○○番地 中日本高速道路株式会社○○支社 ○○部 契約チーム TEL ○○○-○○○-○○○ (代) 内線○○○○

 〇〇
 第
 号

 平成
 年
 月

 日

契約の相手方 所在地 商号又は名称 代表者氏名

殿

中日本高速道路株式会社○○支社長

工事成績評定に係る再説明書(回答)

平成 年 月 日付けで貴社から再説明を求められた評定内容について、下記のと おり回答します。

記

- 1 工 事 名 〇〇〇〇 工 事 (契約番号 000000)
- 2 疑問に対する回答